

平成23年第7回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

平成23年12月13日(火曜日)

議事日程第4号

平成23年12月13日(火曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又稔君
19番	高澤公君	20番	樋口英一君
21番	松尾徹郎君	22番	野本信行君
23番	斉藤伸一君	24番	伊井澤一郎君
25番	鈴木勢子君	26番	新保峰孝君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹	君	副	市	長	本間	政一	君
総務部	長	田鹿	茂樹	君	市民部	長	吉岡	正史	君	
産業部	長	酒井	良尚	君	総務課	長	渡辺	辰夫	君	
企画財政課	長	斉藤	隆一	君	能生事務所	長	久保田	幸利	君	
青海事務所	長	扇山	和博	君	市民課	長	竹之内	豊	君	
環境生活課	長	渡辺	勇	君	福祉事務所	長	池亀	郁雄	君	
健康増進課	長	伊奈	晃	君	交流観光課	長	滝川	一夫	君	
商工農林水産課	長	金子	裕彦	君	建設課	長	串橋	秀樹	君	
都市整備課	長	金子	晴彦	君	会計管理者会計課	長	山崎	弘易	君	
ガス水道局長		小林	忠	君	消防	長	山口	明	君	
教育	長	竹田	正光	君	教育委員会教育総務課	長	結城	一也	君	
教育委員会こども課	長	山崎	光隆	君	教育委員会生涯学習課	長				
					中央公民館	長兼務	田原	秀夫	君	
					市民図書館	長兼務				
					勤労青少年ホーム	館長兼務				
教育委員会文化振興課	長				監査委員事務局	長	横田	靖彦	君	
歴史民俗資料館	長兼務	小林	強	君						
長者ヶ原考古館	長兼務									

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫	君	係	長	松木	靖	君
主	査	大西	学	君					

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、11番、中村 実議員、24番、伊井澤一郎議員を指名いたします。

日程第 2 . 一 般 質 問

議長（古畑浩一君）

日程第 2、一般質問を行います。

昨日に引き続き通告順に発言を許します。

田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

おはようございます。

市民ネット 21、田中でございます。

発言通告書に基づいて質問いたしますので、よろしく願いいたします。

1、並行在来線について。

新潟県並行在来線株式会社が設立されて 1 年が経過しました。これまで各地で幾度かの市民対話集会が行われましたが、会社が示した構想案に対し市民からは不安の声が聞かれますことから、以下の点について市の考えを伺います。

(1) 車両について。

「北陸本線についてはディーゼル車による 1 両ワンマン運行を基本」とする案に対し住民から異論が続出しましたが、次の点について伺います。

ディーゼル車のメリットと課題について。

今後車両についての検討と決定へのプロセスについて。

(2) 運行範囲について。

泊駅折り返しの場合の利用者・市民への影響について。

他県との連携の状況について。

(3) 廃止が懸念される優等列車について。

現状と存続への取り組みについて。

今後の新潟への高速バスを含めた交通政策の見通しについて。

(4) 市民意識について。

利用者・市民の要望を汲み上げ、並行在来線の経営計画策定に反映させることが利用促進の基本ですが、先月開催された中・高生を対象に行われたワークショップの事前アンケートでは、糸魚川高等学校では 64%、直江津中等教育学校では 75%、上越総合技術高等学校では 73% の生徒が、並行在来線が JR から経営分離されることを知りませんでした。

更なる市民意識の向上が必要なことから、次の点を伺います。

対話集会への一般市民参加者数について。

今後の市民意識・マイレール意識の醸成策について。

- (5) 来年の大糸線全線開通 55 周年、糸魚川駅開業 100 周年について市の考えはいかがでしょうか。

2、防災について。

(1) 防災教育について。

東日本大震災を受けて、子供たちへの防災教育の考え方や取り組みの重要性について問われています。市でも教育機関を対象に先月 8 日、防災教育の講演会を行っていますが、状況について伺います。

小中学校での防災教育について。

ア 取組状況について。

イ 保護者との連携について。

学校・保育園での避難訓練・避難計画について。

ア 東日本大震災後に直した点について。

イ 地域住民との連携について。

ジオパークと防災教育について。

ア ジオパーク戦略プランに追加された具体的な取り組みについて。

イ 受入体制について。

(2) 原子力防災について伺います。

県の示した原子力防災対策見直し素案について。

県は、東京電力柏崎刈羽原発の重大事故を想定した原子力防災対策見直し素案を示しました。12月2日の素案説明では市町村からは、「圏域対応格差に懸念」が上がったと報道にありましたが、

ア 素案に対する市の捉え方について。

イ 東京電力との通報連絡協定について。

北陸電力志賀原発の事故時被害予想に対する考えについて。

3、絵本のまちづくりについて。

能生地域の保育園では、絵本作家あきびんごさんとの交流をきっかけに絵画や絵本に対する関心が高まっております。

6月にはあきさんによる絵画教室が開かれ、保育士始め多くの園児が参加しましたし、また、この度、能生保育園の園舎コンクリート塀にあきさんのタイル絵が設置され、間もなく除幕されます。これは10日に除幕されました。

関係者はこのつながりを繋げ更に交流を深めたいとし、糸魚川全域が絵画や絵本に親しむまちになることを願い、あきさんも同じ思いでこども達へ熱い情熱を注ぎ、手弁当で足を運んでくださっています。

まだ動き出したところですが、日本一の子どもの育成を目指す市としても明るい材料ではないかと思いますが、どう捉えているか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、1両運行が可能で、利用に見合った台数を保有することができ、経費節減や貨物調整金のアップが図れることなどであります。

課題といたしましては、電車に比べ維持管理費が割高であることや、運転手の確保が難しいことなどであります。

2つ目につきましては、新潟県並行在来線株式会社はディーゼル車の方針を示しておりますが、その安全性や利便性、経済性を利用者に十分説明し、理解していただいた上で、車両の決定を図るよう要請をいたしております。

2点目の1つ目につきましては、泊駅以西への利用者には乗りかえの手間がかかりますが、ダイヤの調整や一部列車の富山方面への運行により、利便性の確保ができることではないかと考えております。

2つ目につきましては、新潟県が主体となって連携をいたしており、市といたしましても市レベルの情報交換を行っております。

3点目の1つ目につきましては、会社及び県でも存続が必要と考えており、今後もJRに働きかけるとともに、市として譲れない条件ととらえております。

2つ目につきましては、優等列車、高速バスとも市として必要であると考えております。今後とも関係者に対して存続を要望するとともに、市民の皆さんからも積極的に利用していただくようアピールしてまいります。

4点目の1つ目につきましては、今年の5月27日には110人、9月20日には100人の参加者となっております。

2つ目につきましては、今後に対話集会やセミナー、ワークショップなどを開催して、市民や各駅利用者のマイレール意識の醸成に努めてまいります。

5点目につきましては、JR西日本系魚川地域鉄道部と連携をしながら、イベントの開催を検討いたしております。

2番目の1点目、防災教育のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2点目の1つ目につきましては、気象条件や地形的条件等も考慮し、原子力発電所からの距離だけで判断するべきでないと考えております。

全県的に、防護対策や機器材を整備する必要のあるほか、県と市町村の役割分担が不明確であるとしております。また、通報連絡協定につきましては、県内市町村とともに要望いたしてるところであります。

2つ目につきましては、1つ目と同様に対応する必要があると考えており、県内市町村における研究会等で検討してまいります。

3点目の絵本のまちづくりのご質問につきましては、この後、教育長から答弁をいたしますので、よろしく願いいたします。

以上ご質問にお答えしましたが、再度のご質問によりましては所管の部課長からの答弁もありませんので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目の1つ目につきましては、防災講演会等による教職員の防災意識の向上を図るとともに、学級指導や総合的な学習の時間などで、災害の基礎知識や対処法について学習しております。

根知小学校では、保護者や地域全体で防災教育チャレンジプラン事業に取り組み、体験学習を取り入れた教育を進めております。

保護者との連携につきましては、災害発生時の連絡や、児童生徒の引き渡しなど、安全確保の方法について共通理解を図っております。

2つ目につきましては、東日本大震災後、各園、各学校の立地条件により災害対策マニュアルを見直し、園では月1回、学校では学期1回の避難訓練を実施し、確認しております。

地域住民との連携につきましては、地域防災訓練への積極的な参加に努め、学校も一緒になって地域防災に取り組んでおります。

3つ目につきましては、世界ジオパークの認定を受けた当市では自然資源が多くある中、火山、土石流、地すべり、雪崩、越波などの防災施設も多くあり、防災面を取り入れた研修や体験学習を充実させ、広く市内外の学校を誘致する取り組みが追加されております。

受け入れ体制については、市の学芸員を中心とし、ガイドや地元関係者、宿泊施設などと連携して対応しております。

3番目につきましては、絵本や絵画に親しむことが、子どもの成長にとっても重要であると考えております。今後も引き続き、子どもたちが絵本や絵画に触れる機会を多くつくり、教育に生かしていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

再質問をお願いしますけれども、質問内容がそれぞれ関連しますので、順序の変更がありましたらご了承ください。

新潟県並行在来線株式会社が設立されて1年がたったということから、まず2点を伺いたしたいと思います。

新潟県は、2つの鉄道会社と性質の異なる2つの路線を持ち、北陸本線にはデッドセクションがあるなど特異な性格を有するという理由で、他県より早く会社を立ち上げました。糸魚川市は、会

社設立時の出資についてさまざまな議論をして、会社内に入らなければ物が言えないとして参画した経緯があります。

しかし市民からは、市は三セク会社内で車両や運行範囲、相互乗り入れなど各課題にどういう考えを持って臨み、どういう発言をしているかが市民には見えてこないとよく言われます。まず、そのことについてどう考えているかが1点です。

また、1年半、他県より早く設立をしたわけでございますけれども、その成果というものは何か、どうとらえているかがもう1点でございます。

むしろJRからの資産譲渡や新幹線の貸付料、優等列車の存続、隣県との協議など、県の政治的課題解決のほうが先ではないかと言われておりますけれども、この2点について、市の考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

田中議員から2点の質問がありました。1つは、市の意見がどうなっているかということだと思っておりますが、これまで会社、あるいは県等と、それぞれの立場の中でいろんな議論をしてきました。その中で会社を設立をし、一定の運営方針等を出されたわけでありまして、その中ではディーゼル化をしたり、あるいはデッドセクションをどうするか等の話が出たわけですから。それらについては十分協議をする中で進めております。

特に市としましては、やはり設立当時から当市の課題はいろいろあったわけですので、やはりそれらをしっかり会社として、あるいは県として、それらを認めていただきたいということを主張しながら、これまで取り組んでいるところであります。

また、会社の設立に当たりまして、1年以上も早く設立したわけですが、やはり今お話がありましたように2つのJRとの協議、あるいはいろんな課題があるということで、それぞれ県、あるいは会社の中で関係者と協議しているところでありますが、なかなか前に出たような方向での実績というのが出ないということでは、確かに田中議員が心配されてるようなことも、実際には、まだまだそういう状況にあるということでもあります。ですが会社としたり、県あるいは3市としましても、やはり市民の利便性、あるいは安定した経営、あるいはもろもろのことを考えながら、しっかりした形で会社を経営をしたいということで、県、3市、会社で連携をとりながら、今協議してるという段階であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今のお話を伺う中で、県の動きというものが気になるわけですが、またきょうも県議会のほうの報道がされております。改めて伺いたいと思いますが、新幹線の貸付料についての具体的な内容を説明、それから見通し、またきょうの新聞報道にありますような対応は、隣県への影響はどうなるのか、市の考えはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

まず、貸付料ですけども、これまで知事、あるいは県のほうも、たびたびいろんなところで考え方を述べてまいりましたが、端的に言うと新幹線を営業するに当たって、新幹線が開業すると、要するにＪＲが、資金は今、国、それから地方が分担して出しとるわけですから、それに見合った賃料といたしますか、線路の使用料とか、施設の使用料をＪＲが払うわけですけど、その中にＪＲが新幹線のスキームの中に、もともと赤字である並行在を切り離れたときに、その分も要するにＪＲの運営からは逆にマイナスがなくなるわけですから、プラスになるという考え方の中で、その分を貸付料に含めて国のほうに納めると、そういう仕組みでございます。

貸付料の返還というのは、並行在の赤字の分をそこで返すのであれば、それはいわゆる並行在の経営するほうへ回すべきだというのが、貸付料の返還という状況でございます。これにつきましては、いろいろ県が資料を見た中で、国に対してこの分は当然返すべきだということで、これはもう昨年来から要求しておりまして、本来であれば、ことしの３月というある程度の見通しをとということでしたが、震災の影響により、これまでまだ結論が出されない。

この間も３市の議員の説明会の中で、県の坂井局長が述べられておりましたが、事務レベルではいろいろ話し合いは進んでおるが、まだいつまでにとというのは正直なところ、私どもにも明確に知らされてないというところでございます。

この点については他県も、貸付料が返ってくる分につきましては、いろんな連携をしております。ただ知事の中では、他県の中でも全部が全部、同じように同盟会を組んだ中では協議しておりますが、すべての面において全く同一の面でない部分もあるということで、いろいろ協力できる分、それから新潟県独自の分があるという中での協議。それから月に１度は、それぞれ３県、４県の中では、定期的な県の中での話し合いを持っておりますし、会社の運行については、今のところ会社が中心になってやりますけど、他県や国の協議というのは、県が先頭になってやるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

７番（田中立一君）

そうですね。私も大体思っていたとおりの答えなんですけれども、改めて何うと、やはりこの新幹線の貸付料で返還を求める、あるいはスキームそのものが、やはりおかしいような気がするんですよ。赤字解消分を返還を求めるとかというよりも、やはり赤字解消分を払わないでいいから、ＪＲと国が責任を持って継続する運動のほうが、筋が通っているように思うんですけども、いかがでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新幹線貸付料等については、今、田中議員がおっしゃるのも一理あると思っておりますけど、やはり三セクの会社がどうやっても300億円から600億円の赤字が出るということで、やっぱりそこから辺を解消するにはどうするか。やはりJR、あるいは国からしっかりそれらの補てんをお願いしたいということで、県知事が先頭になって頑張っているわけですので、市としてもそれらをやっぴり早く確立をしていただいて、しっかりそれらの補てんなり方向性を出していただきたいということで、県知事とも同じ方向で進んでいるというのが実態であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう1点の市のお考え、発言が市民に見えないということに対して、1つの提言なんですけれども、先日、魚津市と意見交換会しましたけれども、魚津市では、行政、議会、市民、経済界など幅広い構成で、並行在来線の連絡協議会というものを立ち上げて協議しておりますけれども、本市においてもこのような協議会を設立しまして、市民と情報を共有して、発信する体制が必要なんじゃないかなと思うんですけれども、そういう考えはございませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

議会のほうでは、先般、富山県側と協議をしたということもご承知をし、市の職員も一緒に参加をさせていただきました。それらのいろんな意見を聞くと、やはり市民の声を議会を通して聞いたり、あるいは直接聞いたりという、そういう場の必要性というのは十分あるんだろうと思っております。今の場合は市とすれば、特別委員会を設けていただいているわけですので、その中でいろんな角度からご論議をいただいておりますが、やはりより市民の声を聞くということであれば、いろんな団体等がありますので、それらを聞く場をやっぴり設ける中で、これまでできとるわけですが、今、ご提言のあったものについては、市議会、あるいは市民と一体となった協議会をつくるどうかということは、もう少し検討させていただいて決めなきゃならないと思っておりますが、いずれにしても、これだけたくさん声が出てくるということは事実でありますので、しっかりまた議会等との相談をしながら、方向を出していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくをお願いします。

では、（1）の車両についてですけれども、県並行在来線株式会社は、先日、運転手6人を内定しました。電車を運転するには免許が必要なんですけれども、こんなに早く運転手を採用するのに当たっては、ディーゼル車の運転できる職員を早く育てるのが、目的じゃないかという考えがありま

す。ディーゼル車を運転するには、それなりの国家資格を取得することが必要だということで、1年半から2年かかるというふうに聞いておりますけれども、今回、そのように早く採用していくに当たっては、もう北陸本線の車両はディーゼルを前提に進んでいるというふうに思われても仕方がないかなと思うんですけれども、この点についてはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

まず、運転手の数ですけれども、運転手になるには電車であれ、それからディーゼルであれ経験を積んでやっていかなければならない。ただ、今そういう運転手の資格を持つのが、やっぱり既存のJRのところへ研修に行ったりしてやらなければならないということで、例えば、それに2年かかるとしても、開業時にはそれ相当の人数が要るわけですから、例えば、定期的に限られた数しか受け入れられないということでございますので、早目に何人ずつという単位の中で、必要な運転手を育てているという形で今年度から採用して、来年度からそういう研修を受けて、26年度に並行在になったときに、もうスムーズに運行できるような形でということで、早いタイミングということになっております。

それから、特にディーゼルの運転手というのは、今のところ少ないというふうにはお聞きしておりますが、ただただディーゼルの運転手を、ディーゼルという方針のもとで、早く運転手を雇うということではなくて、これは電車でありまして、それからディーゼルでありまして、ある程度の期間が必要ですので、特にそれを意識したということではなくて、全体の設立時の人数を見きわめて、今、受け入れられる体制を見きわめた中での運転手の教育ということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ディーゼルが前提じゃないということなんですけど、まだ他県では会社も立ち上げていない中で動きなもんですから、石川県などはまだ、距離が短いとはいっても来年の末あたりというふうになってます。そういったことから考えて、やはり早いんじゃないかなという気がしたもんですから、伺ったままでなんですけれども。

まず、ディーゼル車の問題点等について先ほど答えてもらいましたけれども、私なりに安全面と環境面と価格、相互乗り入れについて伺わせてもらいます。

安全面ですけれども、ディーゼル車は燃料を積載して走るということから、一番怖いのはトンネルですね。何度も指摘されましたけれども、北陸本線はトンネルが多く、中には頸城トンネルの12キロといった、そういう長大なものがあります。そのほかにも親不知トンネルが約4.5キロ、新子不知トンネルが3.7キロというふうに、長いトンネルが何本もあります。

市振・直江津間は約60キロですけれども、その間に14本のトンネルがあって、距離にして約37キロ、61.55%がトンネルというふうに聞きました。やはりこういったことになりますとトンネル内の安全対策、それから救援車とか救援用の機関車の配備、ワンマン運行でどのような避

難計画、誘導計画、そういったことがポイントになるかと思えますけれども、この辺の検証というものはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

北陸本線のうちの管内にはトンネルが多いということは承知しておりますし、それから列車の運行につきましては、これはディーゼルであっても、それから電車であっても、これについては今の安全な規定の中で、当然、運行をしなければならないということがございます。

それからトンネルにつきましては、これは北陸本線の列車火災事故から長大トンネルというものを、5キロ以上のものをそういうふうを示した中で、それについては例えば車両が停車した場合、迎えにいく例えばディーゼル車なりモーター車を用意するという仕組みはとっております。

それから、これについても会社のほうでも例えばディーゼルと、それから電車の安全性については、事例を示した中で過去の例えば列車事故の状況とか、そういうものをやっぱりわかりやすく示した上で検討していただかないと、ただただという安価だけではいけない面もありますので、やはり安全というものにも主眼を置いたような説明を、今後も資料を示した中でやっていただきたいことを申し上げているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひそういうものを示していただきたいと思うんですけれども、今挙げたようなことをきちんとやると、かえってディーゼルのほうが高くなるんじゃないかなという気もするところでありますけれども、今後その辺のところをよろしくお願ひしたいと思います。

それからディーゼルに限らないと言われましたけれども、ご存じのように、ことし5月21日には北海道で事故がありました。その前にも四国で事故がありまして、5月30日には国交省が、全国のディーゼル車3,344両の緊急点検指示が出たりしております。このことについては、どのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

その件については把握しておりませんが、会社としては安全性ということを基本にして対応するということですので、先ほど課長が言いましたように、やはりいろんな不安があることについてはしっかり資料、あるいはいろんなことをまとめて説明する中で、理解を求めたいということでありますので、その方向で進めてもらいたいということを要望してるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

やはりまず第一には安全、場合によっては高くつく場合がありますので、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

次に、環境面ですけれども、やはり同じようにCO₂等の排出量、これは電車よりも多いというふうな方向性のほうでも出されておるわけですが、一体どれだけ多くなるのか。また、トンネル内では一体どういう状態が起こるのか。そういうような数値を挙げてディーゼル車、あるいは運転、乗客にどういう影響が出るかということシミュレーションしたのも示してほしいと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長(金子晴彦君)

環境なり、それから乗客、その列車内での、トンネル内でのCOだと思っんですけども、それについてはいろいろ今ディーゼル車を建造しとるところで、今の頸城トンネルのシミュレーションなりを行っていただいたんですけども、それにつきましては、今、環境基準のものに対しては十分クリアできるというような、トンネル内もトンネルの断面の中で風が吹いたり、それから列車が通ることによって次々に空気が押し出される。そういうような効果によって、COがとどまらないというような形での今シミュレーションが出てるところです。そういうものもやっぱり形にして示してもらうことによって、どっちがどうという色をつけなくて、お互いに条件を両方示した中で、やっぱり判断できるような資料も必要かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

ぜひそのような資料のほうを、しっかりとお願いしときますけれども、以前、元JRの方からのお話で、昔通っていたディーゼルの特急が、長いトンネルに入ると前が見えなくなったという話を聞いたことがあります。今は随分車両のほうも進歩してるかと思っんですけども、ぜひその辺の検証しながら安全に、あるいは環境面にも配慮してもらいたいと思います。

もう一つ、やはり先ほどから話が出ている頸城トンネルですけども、筒石駅の駅員さんに先日伺ったところ、年間1万人を超える入場者といいましょうか、お客さんが来てるということで、私も大変びっくりしましたけれども、大変大事なジオサイトの1つであるわけですけども、この入場者が駅のホームへ行ったとき、COですか、あるいは異臭等、そういった面において嫌な思いをされないか、そういったことも含めて検証していただけたらなど。少し細かい話になるかもしれませんが、それぐらいきっちりやっていただきたいと思っんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(古畑浩一君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

仮に電車よりディーゼルが、そういうものの発生が多いということになれば、その辺の安全性も十分クリアした上での決定になろうかと思っておりますし、その辺もデータとして示していただきたいと思っております。

〔「議事進行」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

議事進行の動議が出されました。

保坂良一議員。

10番（保坂良一君）

今、田中議員から質問が出てる在来線の話については、在来線会社が設立しているわけがございますし、この中に取締役、また役員もおられますので、その関係の役員から正式なる答弁をいただきたいと思えます。

今までの答弁を聞いておりますと、市民の説明会とか、そういうところで聞いているだけの話で、だろろうとか、やろろうとか、そうだろろうというような話でございますので、役員が出とるんございませうので、確かなる回答をお願いしたいと思えます。

議長（古畑浩一君）

ただいまの保坂良一議員からの議事進行上の動議であります。議長の議事整理権において、ただいまの質問者は田中一議員であります。田中一議員の質問の裁量権の中で必要とあらば、そうした立場の役員に対して答弁を求めるという形の中で、質問をやっぱり進めていただきたい。

この質問の通告者は田中議員でありますので、傍聴議員につきましても、いささか不満な点はあろうかと思えますが、ここは田中一議員の一般質問として、みずからの裁量権の中で質問を続けていただきたい。議長としましては、そのように判断をいたします。

それでは、質問を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中一君）

よろしく申し上げます。

ついでと言ったらなんですけど、筒石駅の話をしたんですけども、車両とは別なんですけれども、今、青春18切符という切符が発売されておまして、すごく筒石駅での発売されているこの切符が注目されて、またそれを求めて多くの客がみえているということも聞きましたけれども、経営分離された場合には、やはりこういう切符の扱いというものもなくなるんじゃないかなと、あるいはできなくなるんじゃないかなという懸念を聞くんですけども、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

会社としましては、やはりこれだけの経営赤字が出るわけありますので、やっぱりいろいろな

角度から利用していただく手段をいろいろ考えているわけでありまして、今、筒石の駅では田中議員ご提案があったこと、あるいは現実にたくさんの方がトンネルの中を見に来とるわけですから、それらは1つの施設の中の一部ということでもありますので、当然それらを利用するような手段というのは考えながら、利用促進につなげていくようにしなきゃならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次、価格や費用のことなんですけれども、富山県は新型車のE521の早目の導入をJR西に働きかけております。来年3月のダイヤ改正時には、北陸本線の富山県内区間には新型車を複数台導入というふうに聞いております。交直両用ですからデッドセクションは関係ありませんので、JR西が直江津駅まで運行するのではないかと思います、情報がありましたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

富山県が中心になって、富山県内の三セクの会社の窓口になってますことから、JR西といろんな折衝をしとる中で、今ご提案のあったようなことは、実際、協議されているということが新聞に出ておりました。新潟県のほうへそのことを伝えて、やはり新潟県の並行在来会社としてどうするのかということも、検討すべきことであるということをお話をしながらきとるわけでありまして、やはりそういう情報をしっかり伝えながら、先ほどから出ておりますディーゼル化の話も、詰めていくということで話を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり交直両用の、新型に近い中古の車両の購入のほうの魅力があるんじゃないかと思いますし、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

相互乗り入れについてになりますけれども、ディーゼルですと同じ会社内なのに信越本線と北陸本線、相互直接運転ができないということについて、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

まだディーゼルが決定したわけではありませんが、ディーゼルは要するに電気が走っているところも走れますので、乗り入れについては今度は運用の問題だと思っておりますので、物理的には、走行できるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

接続を短くする、そうやって利便性を高めると、当初から会社の方向性の中では接続、あるいは乗りかえが前提の説明がずっとされてきましたので、やはりこれを利用する方は、泊駅のほうにしてもそうなんですけれども、対象となるのは高校生や病院へ行く人が多いので、ぜひその辺の利便性を図っていただきたいと思います。

次に、優等列車でありますけれども、今開会中の県議会では、泉田知事の発言報道に、新潟・直江津間の優等列車の存続については、JRの経営にマイナスとなることを、一方的に求めることはできないとありました。このことについては、どのようにとらえておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

優等列車につきましては、やはりこれまでも糸魚川から県都へ行く重要な路線であるということで、やっぱり糸魚川市民全体の考え方ということでのとらえ方をしておりますので、先ほど市長が話をしましたように、やはりこのことは譲れないということで県なりに話をしておりますので、しっかり今後ともそういう要望、あるいは協議を進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひお願いします。

それから高速バスですけれども、利用促進に努めるというふうに話をされましたけれども、利用者の、あるいは市民の意見を聞く機会とか、そういったことを設ける考えはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

そのような情報収集も必要と考えておりますので、今後考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次、やはり同じく県議会の坂井交通政策局長の発言で、新駅についてありました。今、会社のほうでは5カ所、新駅設置に向けた調査を実施していると、この沿線3市の中で、場所はどこか、わかっただらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新市になりましてこのことについては、実際に市として議会と市民と協議をしてないわけですので、どこということ具体的には言っていないですが、合併前の市の中では青海地域では須沢近辺、あるいは糸魚川地域では糸魚川総合病院、糸魚川高校の付近へ乗り入れする駅があったほうが便利ではないかということの話がありましたことから、それらのことが話題となって検討されとると思っておりますが、市としてどうするかということは、まだ一切言っていない立場ですので、そのようなご理解をお願いしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もともとは、これは地元請願方式ということでありましたので、やはり地元から声を上げないと、なかなか進まないんじゃないかなと。今そのことについて、まだ具体的な話を進めていないということなんですけども、地元の市としては、今後どのように新駅について考えて、動いていくのか、考えがあったらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほどの答弁でもお答えさせていただきましたが、やはり市民の利便性を高めることで利用率が高まるんだろうと思っておりますが、しかし、投資対効果というものもあるわけでありまして、その辺を考えると、どういう状況かということもこれから検討しなくちゃいけないし、以前からの中においても多少検討してる部分があるわけでございます。そのようなことが実現になってないということもあるわけでありまして、そういったところをこれからの中で利便性を高める中においては、どうすればいいのかというのは、やはり研究の中の大きな課題だととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今回の発言の中では、確かに市長が言われるように大変なお金がかかるわけですが、整備負担についても話が出ておりました。必ずしも請願方式にこだわらないとして、必要性が認められた新駅については、費用負担の仕組みを検討するという考えを示したというふうに報道されておりました。ぜひこの変わっていくこの負担の方式について市も研究、あるいは協議しながら、負担が少なく、そして利便性が高まる方向を考えてお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

費用負担、請願方式ということで、声を出した自治体のほうでそれらを整備するということできておりましたが、そのような発言で利用促進を図りたいということでの県、あるいは会社のほうの考え方を示されたんだと思っておりますが、やはり経費が安くあがって、やっぱり市民に利便性があるということであれば、それにこしたことはないわけで、そこら辺をしっかりと踏まえながら、検討していきたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

では、ちょっと飛ばしまして（５）の来年、２０１２年、大系線全線開通５５周年、それから糸魚川駅が開業１００周年ということで、先ほど答弁いただきましたけれども、さらに再来年は北陸本線が全線開通１００周年であります。またその翌年が新幹線の開業というふうに、すごく大きな節目が続くわけですけれども、この辺のとらえ方を、どのように考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

おはようございます。

北陸新幹線の開業に向けて、その間にさまざまなイベントのチャンスがあるととらえております。大系線の沿線の活性化も重要な課題でありますし、また、こういったチャンスを形にして誘客、それから新幹線を契機とした来客の増につなげていくという考え方でありますので、これについてしっかりと準備をし、また関係をするＪＲですとか、また観光団体その他との協議をしながら、取り組みを進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

本当に大きなこれはチャンスだと思いますし、しっかりと。そして今言われた機関、団体ばかりじゃなくて、沿線各市町村も含めて、この３年間のスパンの中で、あるいはさらに向こうを見据えた中で、きちりとすばらしいイベントなり、あるいは事業を市民とともに考えていくようなことが大事じゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうかね。もう一度、答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

イベントを開催するに当たりましては、やはり盛り上がりにつなげるという意味合いでも、また、これからの鉄道を利用するという皆さんの意識をしっかりとっていただくためにも、住民の皆さんの参画、また、沿線市との協力といったものは必要だと思いますので、そのようなことを目指して検討を進めて、実際に実施できるようにしていきたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

具体的な1つの話といたしましうか例で、大系線・北陸線を守る会の機関紙「軌跡」が先日配られて、机の上にあります。10月18日に市の担当部署と懇談して、市側の回答としては、大系線、北陸本線にとっては大きな節目であるので、各種イベントを実施していきたい。例えば北陸本線へはSL、大系線ヘリゾートビューの乗り入れをJRと協議したいと掲載されておりました。

取り組み状況、何か進展がありましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、来年度に向けて、例えばキハのラッピングや、それから花いっぱい運動フォトコンテストなどを地域鉄道部とともに、今、調整をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ守る会の期待に沿うようないろんな事業を考えて、また実現していただきたいと思います。こういった事業をやっていく中で、祝賀ムードを一気に盛り上げて、新幹線の開業を迎えるというような形になるよう望みたいと思います。

並行在来線問題や大系線、高速バスの存続など、地域の公共交通財産が今脅かされておりますけれども、新幹線の開通、少子高齢化を見据えた公共交通体系の確立、そういったことを要望して、次の防災のほうに入らせていただきます。

先日も防災教育の講演会等、また各地において出前講座を行われて取り組んでおられるわけですが、この各学校等における防災教育についてのカリキュラムというものはあるのでしょうか。また、どのような形になっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

各学校において防災教育の系統だったカリキュラムは、まだつくられておりません。それぞれの

学校では県の出された資料をもとにしながら、今、最低限の知識、それからその行動の仕方について学習しているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

取り入れてない、あるいはないということなんですが、今後、取り入れる予定等はあるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

現在、釜石市津波防災教育のための手引き書というのがありますが、この前、片田先生が講演されたものですがけれども、それらを参考にしたり、当市の実情を踏まえて消防本部等とも検討しながら、できるだけわかりやすく、子どもたちに理解しやすいものをつくっていこうと、今検討をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ進めていただけたらと思います。

またいつ起こるかわかりませんので、災害は。そういうことでスピーディーに、また、わかりやすい形でお願いしたいと思います。また立地条件というのは各学校で、先ほど市長の答弁にもありましたように、違うわけですから、そういう立地条件にも合った内容のものが必要なんじゃないかなと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

議員のおっしゃるとおり、糸魚川の中では、今、東日本大震災に関係して津波に対する基礎的な知識とか、避難についての指導もしておりますが、糸魚川の中ではさまざまな自然災害の危険もあるわけですので、各学校等の立地条件に合った避難の仕方、あるいは備えをしていけるように、各学校で指導してもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

保護者との連携や、あるいは2の地域住民との連携について、先ほど答弁をいただきましたけれ

ども、かなりいろんなところで地域住民、あるいは保護者と連携、あるいは理解を得ているというふうな答弁だったと思うんですけども、実際もうかなりのところで、何力所ぐらいという数字はあれですけども、こういう地域と一体となった避難計画、あるいは避難訓練というものを、これまで行われてきてるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

子どもたちの災害については学校だけではなくて、地域で生活してる中で起こり得るわけですし、通学等の中でも起こり得るわけです。地域の方々と、実際に地域で生活していく中で避難をするということについて、連携をとりながら進めていくことは非常に大事だと思っています。

こども課のほうで聞いている範囲では、筒石地区等では地区の防災訓練に子どもたちが参加しながら、あるいは学校の先生も加わりながらやっている。あるいは、先ほどちょっと例が出ましたけれども、防災チャレンジプランの中で、根知地区は地域を挙げてその避難訓練、あるいは防災に対する備えをやっている。上刈地区、あるいは上早川地区なども、そのような活動が行われているというふうに聞いております。

実際の活動の中では、学校の避難訓練に地域の方も一緒に指導、参加をするとか、地域の防災訓練と一緒に加わる。あるいは学校の先生方も顔を出しながら、一緒に見守るというのが行われていると、そんなふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

何力所かで行われているということですけども、これはひょっとして地域によって差が出てくる可能性もあるんじゃないかなと。その点については、どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

全地域で子どもたちも一緒になった防災訓練をやってほしいなと、そんなふうに感じているわけですが、まだ準備中の地域もあったり、これから取り組むというところもあるかと思います。

今実施しております根知地区の防災チャレンジプランが、その代表的な例になるのではないかと考えております。今後、根知地区の実践を、広く市内のそれぞれの小中学校に普及を考えながら拡大をしていきたいと、そんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひ全地域で安全に避難訓練、避難計画を進める中で、住民が安心・安全に暮らせるように、また子どもたちも、そのようにお願いしたいと思います。

東日本大震災が起って、いろいろと見直しをされているわけですが、新潟県の地域防災計画、これでは地震、あるいは津波のことについてですけども、本県の北部沖、南西沖、佐渡北西沖の3領域で、地震が起きた場合の津波をこれまでは想定していたけれども、新潟県津波対策検討委員会では、今後、複数エリアでの地震が、同時発生する連動型地震が予想される地点など、新たに4つの領域を加えてコンピューターによりシミュレーションを行って、年度内に市町村へ具体的な津波想定を示す予定というふうに、以前、報道で聞いたことがあるんですけども、これは示されているもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

現在、県の津波対策委員会のほうで検討中でありまして、結果についてはまだ示されておりません。今年度末、3月までに結論が出るということで聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

また示された中で、新たな対応が必要になってくるんじゃないかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思います。

各自治体において、この防災ということについては、最低限のインフラの設備というものが必要なわけでありまして、先ほど話に出ました片田教授、先日、朝日新聞にも大きく取り上げられておられまして、今まで国や自治体が指導のインフラ整備が多かったということなんですけれども、それから今は個人レベルでどう被害を防ぐかというふうな観点、そういう観点が重要になってきたというふうに述べておられました。先月の講演会でも、そのような話をされたわけですけども、これを聞かれた教職員、あるいは関係機関の皆さん、防災教育に生かした取り組みというのは、今どのようにされているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

先般の講演会の中で片田先生も強調しておられましたが、みずからの命はみずから守ると、その姿勢が大事であるということでありまして。

先般の講演会では、学校関係者、園・小中高、あるいは市外からもおいでになりましたけれども、その方々に防災に対する、本当に命にかかわる問題なんだという危機意識を持ってもらいながら、その姿勢を持って学習してもらい子どもに伝えると。その姿勢を大事にした防災教育を、各学校で

やっていく1つの大きな機会になったというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ぜひその姿勢を防災教育の中で生かしていただきたいと思います。

次、ジオパーク戦略プランと防災教育でありますけれども、戦略プランにありますように、防災学習への関心は確かに近年高まっていると思いますけれども、大震災後、特に注目されているのは、1番はやはり地震・津波なんですけれども、この24のサイトの中には、直接的にそういうものがないわけですね。24のそれぞれの特徴を生かした、ジオパーク戦略プランというのを展開すると思うんですけれども、この受け入れ体制。先ほど伺いましたけれども、防災教育に対する施設の整備というものを、何か具体的にお考えがありましたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

非常に市内には、火山、土石流、地すべり、雪崩、越波というふうに、いろんな施設が防災的に配備されております。現有の施設等を活用しても、十分研修できる範囲かなと思います。

例えば、能生地区における雪崩の災害を受けました後の誘導堤、それから減勢堤、それから焼山エリアに関しては砂防公園、姫川沿線に関しては大きな土石流がありましたし、至る河川においては、ほとんどの河川で砂防ないしは治山という事業が実施されております。そういうエリアを活用しながら、子どもたちと十分体験学習の中で、誘客拡大を目指したいという趣旨で考えたものです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それを受け入れるガイド等ですけれども、先ほどガイドや学芸員が中心ということですが、ただ単なるガイドをすることばかりじゃなくて、防災の知識も必要になってくると思いますけれども、その辺の習得等はどのように対応していきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

1つは、今の現有の体制の中では、フォッサマグナミュージアムにいます学芸員にご協力いただいております。なお、ジオパークガイドについても、ことし2名加わりまして38名の体制を持っています。

ただ、おっしゃるとおり定点ガイドを含めて施設の案内が十分かといえは、まだまだ不十分な点

が多いと思います。これからガイド研修等の中では、やはりそのようなプログラムをしっかりと研修の材料としまして、拡充を図ってまいりたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

この防災教育を取り入れる着目はいいんですけども、そのニーズ等の調査というのはどう考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

今、ジオパークの1つの誘客活動の中には一般のお客様を含めて、もう1つは今ほど話のとおり研修なり、防災施設を活用した1つの体験学習で、しっかり糸魚川を見ていただくという形になっておりますけども、特に今の市内の学習状況としまして、小中学校を含めて現在で既に67回、3,024人、それから23年度データでありますけども、現在までに少しプログラムをもった講座関係では、56回で3,585人ということで、先ほど教育委員会のほうからも話してましたが、学習意欲としては非常に授業について定着している、なおかつ昨年に比較しますと、既に倍ぐらいの人数に参加してもらってます。

なお、市外を含めた富山、それから長野、それから関東圏の各小中学校、並びに大学からも、非常にフォッサマグナミュージアムを中心に研修体制に入っております。現在まで、延べ37団体で2,241人の皆様に当地に来ていただいております。十分体験学習の場としては、フィールドとして糸魚川は整っていると思いますので、まだまだ拡充しなきゃいけない部分はたくさんあると思いますけど、しっかり誘客拡大を図っていくべき、また、宣伝啓発にしっかり入っていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ちょっと違ってたかなと思います。

原子力防災にほうに入らせてもらいます。素案ではUPZもPPAも当市は入らないわけですけども、先ほどの答弁のように、やはりただ単純に距離で測れるのではないというふうに思います。

じゃあどうしたら一番いいのかなと私は思うには、この単純に距離に応じたの同心円で線引きするよりも、気象条件とか、あるいは地形、風向などによって放射能の汚染地域というのは影響を受けるわけですから、SPEEDI・緊急時迅速放射性影響予測システム、こういうものが災害発生時に使われるわけですけども、予防にこういったものも活用できないか。また、そういうのを活用するように求めていくことが大事じゃないかと思っておりますけども、考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

議員おっしゃるように、やはりそれは同心円ではなく、地象、地形による影響ということで、それは十分考えておきまして、当市におきましてもそのようなとらえ方をしながら、県内の市町村長による研究会等々でも申し上げております。

なお、S P E E D Iのそういう観測システムを、予防に使えるかということでございますが、当然それは予防に使える、いち早く出せるというシステムになっているということを文部科学省、まさしくS P E E D Iの現場を、私は市長と見させていただきまして確認しておりますし、今後もそれを活用するように、強くこちらからもお願いしている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

そのS P E E D Iを使えば、最後に載せてあります志賀原子力発電のほうも、距離は大体系魚川は80キロから百数十キロ範囲にあるわけですが、やはり重要な資料といいたまうか、参考になると思うんですが、そちらのほうでも対応できるわけでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

ただいまのご質問は、S P E E D I等々の予測システムが、志賀原発にも活用できるかということですが、それは当然、文部科学省が設置してるものでございますので、全く同じような使い方でございますし、当市といたしましても全く同じ考え方で、それは県を通じながら、また進めていただくように要望しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今回の素案では、安定ヨウ素剤のことについては、40歳未満の全員に全県に配布するというふうにありましたけれども、今後、話し合いの中で決まってくるかと思うんですが、保管場所や服用のタイミングの指示、周知などは、どうやって進めていくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

安定ヨウ素剤につきましては、国の検討委員会、あるいは県のほうでもそのような考え方が出ま

した。全般的に県のほうで配置していくということですが、まだ詳細には県の配置については出ておりません。それにつきましては今後こちらからも、そのことが具体的でありませので、要望をしております。なお、安定ヨウ素剤につきましては、とりあえず当市では配備していくということで準備しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

安定ヨウ素剤の当市での配備については、鈴木議員が前回の質問でも挙げておられましたけれども、当市においても配備するわけですが、県の素案でそのままいきますと、40歳未満という線引きがあるわけなんです、当市ではそういう線引き等を考えているとか、あるいは、その活用の方法とか、当市での取り組みというのはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答え申し上げます。

安定ヨウ素剤の配備、あるいは緊急時の服用につきましては、あくまでも医学的根拠に基づいて投与されるものでございます。したがって、現在のところ国のほうでも、あるいはたしかIAEAのほうもそうだと思いますが、40歳未満ということで線を引いてるということもございし、今後の配備方法、あるいはそういう投与方法につきましては、国、県のそういう状況をつかまえながら、かつ医師会、あるいは薬剤師会とも協調しながら、進めていくということにしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

40歳以上の方の中で希望があった場合の対応とか、あるいは医師の勤め等もあるかもしれませんが、そういったことは可能なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えします。

先ほど申し上げましたが、あくまでも医学的な見地に基づいた医師の処方によるものでございしますので、そちらは医師の判断によるというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次、環境放射線の監視でありますけれども、この素案に示されたとおりでいきますと、市内では何カ所とかというのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

素案に示されたものにはございませんが、市では定期的に市内8カ所で放射線量の測定を行っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次に、東電との通報連絡協定でありますけれども、進めていくというふうに先ほど答弁いたしましたけれども、今後、安全協定への発展とか、そういったことは視野に入っているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

安全協定につきましても先ほどの通報連絡協定のほうが、県内の市町村長会のほうで、いろいろ研究会のほうで検討しております。それに合わせ進めておりますので、そういうことも当然視野に入っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今回は東京電力との通報連絡協定なんですけれども、例えば志賀原発は北陸電力というふうに、東北電力、北陸電力との協定ということは視野にありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

北陸電力のほうも視野に入っておりますが、やはり県を通じ、あるいは国を通じという形になるうかと思いますが、当然、同じようなことを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、じゃあ絵本のまちづくりのことについて伺ひます。

ちょっと資料をきょう持ってきましたけれども、この絵本をごらんいただければと思ひますけれども、教育長、この絵本をごらんになったことありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

サイズ的には見たことありますが、その絵本そのものは見たことはありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

これは汐路保育園の園児がつくった絵本でございます。あきびんごさんとのつながりをもとに、園で安曇野のちひろ美術館に行ったとき、「したのどうぶつえん」の原画を見たときに園児たちが、自分たちもつくってみようということをつくって絵本だそうです。

あきびんごさんは、この絵本を見て大変感激し、うれしかったわけなんですけれども、民俗学者の柳田邦男さんにもこれを持って行って見せたところ非常に、例えばこれは「あがりいわのさかなたち」という絵本なんですけれども、海ウサギという動物が出てきたり、あるいは表紙と、裏表紙の裏に見返しが書いてあったり、また、こういう帯があったりということで、非常によかったといひましょうか、感激したといひましょうか、おほめの言葉をいただいたということであるそうです。このことを、また1都6県のニュースでも紹介したということだそうです。

あきびんごさんですけれども、私の夢は糸魚川では卒園のときにアルバムだけでなく、自分オリジナルの絵本を記念につくって駅や市役所に展示してあり、絵本のまち糸魚川というふうに、山口県の仙崎のような、仙崎というのは、恐らく金子みすゞさんのとこだと思ひんすけれども、絵本、童話作家の心をはぐくむ港町になることだと。それが美術の県、新潟県につながっていけばありがたいことだと思ひしております。糸魚川のあらゆる人と、絵や絵本づくりをやってみたいものです。例えば市民ホールでのあきびんご絵画入門、参加費、謝礼無料というものでも構いませんというふうに言っておられます。

このつながりを大切にしまして、糸魚川にこの輪を広げていけたらと思ひます。絵や絵本を通じて、糸魚川の子どもたちが日本一の心豊かな子どもになることを祈念して、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

田中議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を 11 時 30 分といたします。

午前 11 時 18 分 休憩

午前 11 時 30 分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。〔26番 新保峰孝君登壇〕

26番（新保峰孝君）

日本共産党市議団の新保峰孝でございます。

私は、北陸新幹線建設と並行在来線問題、介護保険、健康づくりについて、米田市長のお考えをお聞きしたいと思います。

1、北陸新幹線建設と並行在来線問題について。

北陸新幹線の新潟県内区間の工事も土木工事がほぼ終わり、設備の工事中とのことであります。新潟県並行在来線株式会社は、運行の課題と方向性を出しているところでありますが、開業まであと3年と少しになります。当面する問題について質問いたします。

(1) 新潟県並行在来線株式会社の収支、出資金、開業後の赤字、三セクに対する自治体の負担はどうなるか。貨物調整金の拡充による支援額についてはどうか。

(2) 2005年11月の中部圏知事会議の緊急提言では、JR資産の無償譲渡若しくは収益性に基いた資産価格を設定すること等、経営が成り立たない不利な条件を地方に求めないことを提言しております。

新潟県は簿価での買取りを主張しておりますが、赤字前提の会社を設立するのに黒字のJRに無償譲渡若しくは収益性に基いた資産価格設定を求めず、安易に県民、市民に負担を押し付けようとしているのではないかと。役員会でどのような論議がなされているか。糸魚川市はどのような主張をしているかお尋ねいたします。

(3) 信越本線脇野田駅移設事業を東日本旅客鉄道株式会社に依頼した際、JR東日本から並行在来線妙高高原・直江津間の一括在姿譲渡を求められた。これに対して県は受諾し、JRに対して譲渡資産の範囲等で柔軟な対応をお願いしたいとの文書を出しております。JRとどのような取り決めをしたのか。JR資産の譲渡についてどのような考え方でJRと交渉しているのか。

(4) 新潟県域の直江津～市振間をディーゼルのワンマンカーで運行する計画が考えられております。安全性と広域化等を考える場合、問題があるのではないかと。これらも含め運行に関し

て糸魚川市はどのような主張をしているか。

(5) 県ごとの並行在来線会社単位に指令センターをつくるには数年掛かると言われております。指令センターは一本化されていた方が安全・安心であります。県ごとに分割するのもにも費用が掛かります。ダイヤ編成も広域会社の方が合理的に行えます。どのように考えているか。

(6) 新潟県は、各県が連携した並行在来線会社はオプションとして考える立場とのことでありますが、並行在来線の将来を考えれば広域で連携していかなければ存続さえ危うくなると思います。全国ネットワークの重要な役割は東日本大震災でも証明されました。どのように考えているか。

(7) 糸魚川発特急北越の実現に向けどのような取り組みを行っているか。どこまで進んでいるか。

(8) JRへの新幹線貸付料に在来線の赤字相当額も含めているとのこととあります。並行在来線を存続させていくためには、国が責任をもって対策をとらなければならないと考えます。旧政府・与党合意を見直し、JRの経営にするか並行在来線が成り立つよう支援する新しい法律をつくる必要があると考えます。どのようにお考えか。

2、介護保険について。

(1) 介護保険事業第3期最終年度と第4期最終年度を比較した場合の介護認定者数、介護度の違い等特長、各サービスの利用状況はどうか。

(2) 介護保険第5期計画策定に当たっての基本的な考え方はどうか。

(3) 収入が減り各種負担が増える中での介護保険料の負担増は避けるべきではないか。

(4) 健康づくりの取り組みと連携ができているか。

3、健康づくりについて。

(1) 高齢化が進んでいる中で、健康づくり6つの柱の取り組みをどのように進めているか。

(2) 医療費の少ない自治体の仕事を持っている割合、有業率は高い傾向にあります。庁内の連携を強め、高齢になっても適度の身体活動が仕事を含めて行われる工夫が必要ではないか。

(3) 健康いといがわ21の6つの柱が地域ぐるみの取り組みとなるよう、長野県の保健補導員会に学ぶべきでないか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新潟県並行在来線株式会社から収支、出資金、開業後の赤字について、改めて具体的な数字を明示されたものはありませんので、自治体の負担についても今のところ定まっておりません。

また、貨物調整金拡充後の支援額は、現行ケースで30年間390億円、ディーゼル車両1両運行では30年間416億円と試算されております。

2点目につきましては、会社では簿価による資産の買い取りを基本としておりますが、現在、資

産調査を実施しており、調査結果により必要な資産を適正な価格で買い取るよう求めてまいります。

3点目につきましては、資産譲渡は必要なものと、そうでないものをさらにきちんと分け、資産譲渡にかかる交渉が行われるものと理解をいたしております。

4点目につきましては、田中議員のご質問にお答えしたとおりであります。

5点目につきましては、開業後の2年程度はJRの施設を借用する予定であります。その後につきましては、当県の規模に見合った施設を整備することとなっております。市といたしましては、安全で効率的なシステム構築を望んでおります。

6点目につきましては、新幹線開業により都市間交通ネットワークとしての北陸新幹線と、地域交通を受け持つ並行在来線の役割を踏まえ、必要な連携を図っていくべきと考えております。

7点目につきましては、優等列車の存続は会社、県でも必要と考えており、市として譲れない条件ととらえております。現在、県とともにJRに働きかけておりますが、今後も継続して働きかけをしてまいります。

8点目につきましては、並行在来線の存続は地方自治体のみならず、国の支援が不可欠と考えております。そのため国における公的支援スキームの見直しを、新潟県とともに要望いたしております。

2番目の1点目につきましては、介護認定者数は3,040人から3,030人となり、ほぼ横ばいとなっております。

介護度別では要支援1、要介護1、要介護5の認定者が増加し、他は減少いたしております。

主なサービスの利用者数は、短期入所、生活介護が若干減少いたしましたが、通所介護、訪問介護、福祉用具貸与は増加をし、全体として増加の傾向にあります。

2点目につきましては、介護老人福祉施設において緊急度が高い方の入所を確保しながら、介護保険法の規定に従い、可能な限り居宅において日常生活が営めるよう配慮することといたしております。

3点目につきましては、介護サービスの利用が増加している中では、保険料の上昇は避けられないと考えております。

4点目につきましては、健康福祉部門の連携により、健康づくりセンターや地域での健康教室、バランスのとれた食生活の普及、健診受診率の向上等に取り組んでまいります。

3番目の1点目につきましては、健康いといがわ21の6つの分野の1つ目、身体活動・運動では、運動習慣の定着に向け、健康づくりセンターの利用を促進するとともに、同センターとの連携を図りながら地域での各種運動教室等を開催いたしております。

2つ目の栄養・食生活では、海草に注目したワカメを食べよう運動を推進する中で、バランスのよい食生活の普及活動を進めております。

3つ目の休養・こころの健康では、心の病気の予防とともに、早目に気づき適切な対応ができるよう、正しい知識の普及啓発に努めてまいります。

4つ目の生活習慣病では、自分の健康状態を知り、生活習慣を見直すため、健診受診者がふえるよう、受診しやすい体制整備に取り組んでおります。

5つ目のアルコール・たばこでは、疾病予防の観点から適正飲酒の定着と、禁煙・分煙対策を推進いたしております。

6つ目の歯の健康では、自分の口腔に関心を持ち、生涯にわたって自分の歯で食べることができる人がふえるよう、普及啓発に努めております。

2点目につきましては、関係課による連携を図り、高齢者向けの地区運動教室や出前講座、各種スポーツ教室を開催し、だれでも気楽に参加できる環境を整備するほか、シルバー人材センター活動への参加の働きかけや、生きがい活動への支援などを行っております。

3点目、市におきましては、地区運動推進員、水中運動サポーター、食生活改善推進員など、地域住民から積極的に健康づくりに参画していただけるよう、地域ぐるみの取り組みとなるよう進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

並行在来線の問題であります。新潟県は財源確保に責任を持つというふうに言っておりますが、県、3市の負担及び負担割合、これはどういうふうになるのか。財源確保に責任を持つということは、負担にも県が責任を持つということなのか、そこを聞かせていただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

これまでの並行在来線の会社を立ち上げる中でも、いろんな論議をしてきたわけですが、並行在来線開業準備までの間については、県が責任を持って準備をするということは、お聞きしておりますが、その後については、はっきりした答えはまだ出てはおりません。ただ市としましては、平成12年に基本的な考え方を県あるいは3市で、それぞれのそのときの自治体で協定を組んだ中では、新保議員が言われましたように経営分離に当たっては市町の財政負担については、財政状況の許す範囲内で行うということ。それは逆に言えば、県が責任を持つということをおっしゃるわけでありまして、やっぱり利便性のこともこれらのことで、約束のもとで話をこの話は進めたと思っておりますので、それを踏まえながら今後も負担割合については、協議をしていくことになるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

開業までに人件費等二、三十億円必要というふうにされておりましたけれども、出資金の1億5,000万円に不足する額はどうかされるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

開業前のいろんな経費について、三セクの中で経費については、県がいろいろな手段で用立てをするということをお聞きをしておりますので、県が責任を持って対応していただくということで、今のところお話を聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

JR資産の譲渡については、1回目の質問でも述べましたように、ほかの県の知事さん方は、新潟県と違ってJRにも三セクの経営が存続できるような、少なくともそのぐらいのレベルで譲渡を求めていくということではありますが、新潟県知事は、簿価でなければならないということを主張しております。そういうことから考えますと、JR資産の譲渡については先ほど答弁ありましたが、新潟県が責任を持って買うべきではないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。そのくらい主張してもいいんでないかと、それくらい主張しても当たり前ではないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

JR資産の買い取りについては、県が責任を持って対応するというお話はお聞きをしております。買い取る価格はどうかということでは、県知事は簿価を基本として考えたいということをおっしゃってこられたわけですが、経営全体から見れば、当然、赤字にウエートを占めるわけでありまして、今後の中ではいろんな角度から検討されるんだろうと思っておりますが、青い森鉄道、あるいは先般、富山県のほうでの考え方が少し示されましたが、やはり無償譲渡ということでの話が出てくるわけでありまして、県のほうにもやはり資産が古くなったり、あるいはいろんな価格は簿価ではなく、より無償に近い低価格で買い取るべきだということは、市としても話をしとるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

JR貨物の線路使用料であります貨物調整金の拡充が図られて、10年間で1,000億円が見込まれております。これは平成23年度から32年度までの時限的措置であります。先ほど新潟県に対する影響といいますか、プラスになるのは、どのぐらいかという答弁がございましたけども、これをこれまで試算が出されております三セク鉄道、新潟県並行在来線株式会社の経営の収支試算ですよ、最小300億円と最大600億円に当てはめた場合、どういうふうになるか。

この中では新潟県のほうは、線路使用料だけでなく、JR資産の買い取りにもこれは使えるん

だというふうなことを言われておりますけども、この点についてお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

貨物調整金の話につきましては、経営計画の中での300億円から600億円を推定した時点と、今現在は変わってきたわけでありますので、それらを試算する中で390億円、あるいは416億円という数値を出されました。これらはじゃあ経営全体の方向に、どう影響あるかということの全体の詰めはまだ詰めてありませんので、今の段階では、どういう影響があるかということはお答えはできない状況であります。ただ、やはり早く会社をつくり上げた経過もあるわけですので、市あるいは県の負担というのを早くお示ししていただきたいということは、話をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

最小の場合、30年間で300億円の赤字ということになりますと、少ないほうの390億円で90億円の黒字になるというふうになりますし、いろんな条件がありますので、単純にはいきませんが、相当赤字額が、この段階でも減らされるということになるのではないかと思います。

JR東日本の平成22年度連結決算では、東日本大震災で被害を受けて純利益を減らしてはおりますけども、762億2,400万円の純利益を上げております。762億円、前年度は1,200億円であります。JR西日本の平成22年度の連結決算では349億8,300万円、約350億円の純利益を上げております。前年度は約250億円でございます。ここには信越本線、北陸本線の並行在来線と言われる部分の赤字も含めて計算をされているわけであります。無償譲渡もしくは収益性に基づいた資産価格を求めるというのは、これは当然ではないかと思うんですね。

そういう点で、先ほども答弁ございましたけども、そもそもはJRを赤字に再びしてはならないというのが、もとにあるんでないかと思うんですね。現在、黒字になってるわけですよ。JR東日本なんか1,200億円の黒字ですよ、純利益が。こういうことをぜひ承知して交渉に反映されるように、糸魚川市としても発言していただきたいと思いますと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新保議員からそのようなお話があることは、当然、会社としてもそうですが、県としてもやはり国あるいはJRのほうといろんな協議をしてるというのは、そこにつながるんだろうと思っておりますので、やはりどうやっても赤字が出る会社ということを考える中では、やはりJR東日本・西日本ともに黒字決算であるということは常々言われてますので、十分そのことは会社のほうに伝えて、やっぱりしっかり主張しなきゃならんというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

経営計画案における開業30年間の公共負担の試算では、投資額が最小計数で約8割、最大計数で約4割が、JR資産の譲渡に使われる額ということになっております。ですから、この中で大部分を占めるJR資産譲渡がどうなるかによって、その後の経営に大きく影響を与えることになるというふうに思います。

JRは経営権を放棄するわけでありますから、ぜひその点を考えて、今回のJR貨物の貨物調整金のほうですね、線路使用料、そっちのほうのプラスの面もありますし、このJR資産の譲渡のほうで頑張ることが、その後の経営にも大いにプラスになるわけでありますから、ぜひ県のほうにも、こういう点は強く糸魚川市としても言っていたきたいと思います。脇野田駅移設問題では、糸魚川市と妙高市は、はっきり言えば、わきに置かれていたという感じではないかと私は受けとめているんですが、最初から相談を受けていたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

脇野田の移設については、これは上越市、それから県との中での話でございますので、私どもは特別その中の深い話というのは、聞いておるところではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

糸魚川市としては実態として、事後承諾ということになったということではないかと思えます。

並行在来線、妙高高原・直江津間の一括在姿譲渡を県と上越市が受諾したということは、信越本線の新潟県区間の一括在姿譲渡を承諾したということになるのではないかと思うんですが、この点については、どういうふうにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

今、新保議員が質問されているこのことについても、上越市、県にやっぱりそういうような前例を残して、今後、資産譲渡の形が決まるということは遺憾であるということをお話をして、今後の対策とすれば、やはり今、新保議員が言われておりますように無償譲渡、あるいは低廉な価格で買い取るようなことを県のほうにも話をして、県でも考え方はそういうことを基本にしようということもお話を聞いておりますので、今後、具体的に資産譲渡の話が出てくるわけですので、しっかりそのことも話をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

この文書によりますと、一括在姿譲渡を受諾した上で、譲渡資産の範囲等で柔軟な対応をお願いしたいというふうに要望しておりますね。これはどういうことなのか。万全なものを譲渡させるという点では、どうなのかという点があるんですが、この点についてはどういうふうにお考えか、あるいは県のほうはどういうふうに言ってるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

まず1点目、脇野田の移設について、これは一括在姿譲渡を受託したということではなくて、脇野田の移転についてのことを受託したという中で、そこだけ一括在姿譲渡だけを特化して認めたということではないということ、そういう中では過去の事例に倣った譲渡をお願いしますということで、申し述べておるとのこと。

それから、

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

+

午前11時57分 休憩

午前11時58分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

1点目については、先ほど申し上げたように一括譲渡を結んだわけではなくて、そういう中で必要なものをお願いをするという答えでありますし、それから、もともと資産譲渡の折は、これは鉄道事業者に対しては、今、運行に必要な資産については、そのまま維持をするような形での譲渡になりますし、それから改良を加えるものについてはそうではないという形の中で、今後、引き継いだときに運行に必要なものの譲渡は、そういうふうを整備して、譲渡するというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

聞きたいのは、例えばこれが必要だ、これが不要でないというもののほかに、それでは一括在姿譲渡というのを承諾した上で、選択して譲渡を受けます。じゃあその選択されたものの中に、例えばレールが多くありますよね、敷設されている。レールが傷ついているものは交換するわけです、定期的に。あるいはレールでなくても、ほかの車両でもそうですし、きちんとした万全なものを譲渡させるんだと、譲渡を受けるんだという。そういうものが、この中にはないんでないかと、きちんとされているのかどうかというのを聞いたわけなんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

前にも新保議員からこのことの質問があったと思っておりますが、やはり不良資産を三セクの会社が引き取るということではできないと。安全・安心できる資産を引き取るということで、それまでの準備を、責任を持ってJRからやっていただきたいということでの話を進めたということで、お聞きをしておりますので、そのような対応で、今後引き渡しはされるというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

傷ついたレールや架線、トンネル壁、北陸本線のトンネルも内部はかなり、もうそろそろ落ちてくると、壁が。そういう状況になってるところもあるらしいですから、そういうふうなもの、あるいは車両等、買ってから修繕する、あるいは交換するというふうなことでは困るわけですよ。万全なものを譲渡させると、すべて点検させるということが必要であります。そういう点で、一括在姿譲渡といった場合に、そういうことが置き去りにされるんでないかと。ぜひ今答弁ありましたけども、そういうことのないように話を進めていただきたいと思います、このように思います。

JR西日本との関係ではどうなのかと。今の話は東日本との関係であります、西日本との関係ではどうなのか、どうなっているかお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

今、三セクの会社では、JR資産の所有状況、資産状況を確認をしております、それらをまとめた中で、県が責任を持って買い取るという話をしております。当然、今、新保議員が言われましたように、そのことについてもお伝えしながらきてるわけですので、JR西についても同じような考えでしっかり不要なもの、あるいは必要な以外のものは買い取らないように、あるいは安全なもので譲渡を受けるようにということは、会社のほうにそのことを伝えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

県が買い取るというので、それはぜひそういうふうにしてもらいたいんですが、県が買い取ったとしても県民、ないし県民である市民の負担になるわけですよ。ですからきちんとして、そういう点はやっていただきたいというふうに思います。

ディーゼル車にした場合、架線は利用しないけれども、維持しなければならないということになります。JR貨物だけでなく各県単位にした場合、富山県からの乗り入れもあります。もし、富山県からの乗り入れで架線の使用料も計算に入れることになると、富山県は電車、線路、架線を使うと、新潟県は北陸本線は線路だけ使うということで、もし富山県から乗り入れで架線の使用料も計算に入れることになると、県境の割増料金につながるおそれがあるんじゃないかと。そういうことはないよということであれば、それでいいんですけども、そうなると通勤、通学の方たち、富山のほうに行ってる方たちに、さらに負担をかけることになるんじゃないかというふうに思います。この点については、どういうふうにお考えか、取り組み状況ほかお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

運賃については今後詰めていくことになっていきますが、やはり冒頭言っておりますように、市民の利便性を重点にしていきたい。当然そのことは、料金も大幅に上がれば困るということ、これまでも言ってきたわけですので、そのことを十分踏まえる中で、会社として当然考えていただかなきゃならんというふうに思ってます。

それから、仮にディーゼルとした場合に、架線の部分は使わないからということで、それらは当然管理費用はかかるわけですので、それをだれが負担するかということになれば、一番大きくJR貨物等が使うわけですので、それらからしっかりかかる経費をもらうべきだということは話をできておりますし、それらによって大きく利用者負担につながるということでは、そういうことでは困るわけですので、そのこともお話をしていかなきゃならんというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

料金が上がるという可能性が高いのは、富山県側なんですよ。相互乗り入れであっても、例えば同じ距離乗り入れをするということでも架線使用料ということがありますと、富山の会社の料金が県境の部分で上がる。あるいはどの範囲になるかわかりませんが、そういう可能性もあるんじゃないかということもあるので、ぜひそういうことにならないように、していただきたいというふうに思います。これはディーゼル車でいいと言ってるわけじゃないんです、それを前提にして、こういうふうなおそれもあるので、ディーゼル車はやめたほうがいいんじゃないかというのが、私の

考え方なんです、そういうことです。

ほかのワンマンカーも一緒であります、運転士が心筋梗塞等を起こした場合、これはバス等でも事故を起こしてるのが報道されておりますけども、事故につながる問題もございます。11キロもの長大トンネルで事故を起こしたらどうなるかと、こういうこともやはり考える必要があると思うんですけど、この点については、どういうふうにお考えなのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先ほどの田中議員の中でも質問があったわけですので、やはり会社としては安全というものを全面的に出す中で運行するというのは義務でありますので、しっかりそのことを伝えながら、今後それらを数値、あるいはいろんなデータとして示していただきたいということでの話をしとるわけがありますので、それらのことを基本にしながら、しっかり説明をいただく中で方向を決めさせていただきたいというふうに思っております。

議長（古畑浩一君）

新保峰孝議員の質問の途中でありますが、昼食時限のため13時まで休憩といたします。

午後0時07分 休憩

+

午後1時00分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

ディーゼルワンマン化の最大の問題は、公共交通の質を下げることではないかと思えます。大糸線の未電化区間の電化の問題が言われて久しいわけですが、鉄道の発展の歴史から見ますと、サービスのレベルを下げることになるのではないかと。県境にだけ犠牲を押しつけるようなことをせず、電化のレベルを維持すべきではないかと。将来を考えて電車を要求すべきではないかと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前段でもお答えいたしました、まだ利便性とか、またいろいろな観点で今検討をしておる段階でございます、どちらかというのは、我々はまだ判断しかねる部分でございます。これからいろんなデータ、またいろんな事柄について我々が検討できるものがあるだろうと思うわけでございます。今の段階でまだ判断してございませんので、今言われたような皆さんのご意見等も、当然、我々は今聞かさせていただくわけでございますので、判断の中に入れて考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

一定程度、貨物調整金の関係で頑張って、改善が図られてきていると。そういう中で、やはり糸魚川市として電化のレベルを維持するという立場で頑張っていたかかないと、このままずると県境がますます不便になるということになりかねない。ぜひそういうことで、頑張っていたかかないと思えます。

指令センターの関係でありますけども、現在、大雪になった場合、直江津駅が非常に問題であるというふうに思えます。全く列車の運行の見通しが立たない状況になるのではないかと。今後はJR東、JR西、これは三セク会社に移行されるということもありますが、北越急行に在来線会社と、こういうところの指令センターが混在して、一層混乱することになるのではないかとというふうに思えます。この点については、どのようにお考えかと。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

指令センターにつきましても今の段階では、それぞれの会社ごとに持っていこうということで話を進めてるわけですが、今、新保議員が言われましたように、本来なら日本海全体、大きい組織の中でやるというのがベターなんだろうと思っておりますが、それらについても話を聞いた中では、しっかりそれらに対応するというようなお話でありましたので、今の段階では、いいとか悪いとかは別としまして、しっかりそれらを雪のとき、あるいはいろんな事態が起きたときに連携をしっかりとれるかということの話を聞く中では、連携をとれるというような話があったものですから、今の中では、そこら辺の調整ということであります。議員の言われたことも当然視野に入れる中で、協議をしまいたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

ぜひ共同の指令システムということも可能です。広域で会社をつくるということと同時に、部分的共同ということも可能であります。ぜひそういうことで取り組んでもらいたいと思えます。

現在、糸魚川から富山行き普通列車が12本、高岡行きが2本、金沢行きが6本あります。こ

れが泊までとなった場合、通勤、通学で困る方たちがおられるのではないかと。例えばYKK黒部事業所、あるいは黒部市民病院、魚津の新川高校等、そのほかにも会社、学校に通っておられる方がおられるんでないかと思いますが、その点については、どういうふうに考えておられるか。大糸線でも西日本と東日本の接続の悪さが、ずっと言われてきたわけでありましたが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

県境間のことにつきましては、それらの利用実態を調査する中で、やはり糸魚川市とすれば富山県のほうに行かれとる方、特に魚津方面に行かれてる方が多くあるわけですので、それらの利便性を欠くことのないようにということでの話をしております。当然、それぞれの会社で区分けするわけですので、1つの運行形態の中でしっかり連携をする中でスムーズな移行、あるいはお互いに相互に乗り入れということは今後詰めていく形になるんだろうと思っておりますが、やはりご心配してるようなことについても当然話をして、詰めていかなきゃなんというふうに思っております。

ただ、長距離については、そのための新幹線等ができたわけですので、新幹線が中心になって動くと思っておりますが、富山・糸魚川間等については、やっぱり在来線の接続を十分とられるような形での運行ができるよう、また協議をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

東日本大震災の被害状況を見れば、交通は広域で対応しなければ、どうしようもないということがわかるんでないかと思えます。各県ごとの会社では、県境の地域が一層不便にされるばかりではないかと。広域会社は、持ち株会社にしてもできるわけでありまして、どうしても単独ということであれば、広域連合のように幾つかの業務を共同で行ってもよいと思えますし、長野、新潟、富山、石川の関係県で協議して広域でつくったほうが、国に対しても影響力を持って対応できるんじゃないかというふうに思えます。どのようにお考えでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新幹線を整備するに当たってのいろんな取り決めの中で、これらの会社の形態等が論議されたわけでありまして、今、新保議員が言われますように広域ということが、そういう大きい力になれば、いろんなことでの対応ができるんだろうと思っております。

三陸のほうでは大変な被害でそれぞれの三セクも、三セクという小さい会社の中では、復旧困難というような事態も出てるわけですが、ただ、この糸魚川のほうにつきましては、やっぱり日本海の縦貫の鉄道でありますので、やはりそこら辺は、国からもしっかり責任を持った対応をしてもらわなきゃなんというふうに思っておりますし、運営と非常事態の話というのは、また違った角度から

維持をしなければならぬというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

12月9日の新潟日報で泉田知事が、北陸新幹線開業に伴いJRが存続の是非を検討している直江津・新潟間の特急列車については、JRの経営にマイナスになることを一方的に求められないと。国が貸し付けるような赤字解消分を返還することが、まず必要だというふうに発言したということが報道されております。この中には、JRが存続の是非を検討している直江津・新潟間の特急列車とありますが、糸魚川は出てきておりません。

もう一つは、JRの経営にマイナスになることを一方的に求められないと。国が貸付料の赤字解消分を返還することが、まず必要だということは、貸付料の問題が解決されない限り、特急「北越」の継続した運行を、JRに要求しないということになるのではないかというふうに思ひますが、これについて糸魚川市として県に何か対応をしましたか。こういうことでは困るということをお願ひしましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

県知事の詳細なことはわかりませんが、JR西では直江津から北側の新潟方面のことが管轄でありますことから、そのようなことを言われたんだろうと思ひますが、当然、糸魚川市とすれば、西日本の管轄で糸魚川から直江津までの管轄ですので、やはりそのことは県にもしっかりJR西との協議を訴えてお願ひしますし、糸魚川とすれば冒頭市長が言っておりますように、「北越」等の廃止、あるいは休止ということはお願ひはならないということで、このことを強く要望しておりますので、引き続きしっかりと話を進める中で、取り組んでまいりたいと思ひます。

議長（古畑浩一君）

本間副市長、一番最初のところで「JR西」と言っているんですけど、「JR東」の間違いでは。

副市長（本間政一君）

失礼しました。ありがとうございました。

直江津から新潟方面はJR東でありましたので、訂正をお願ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

こういうふうに新聞に泉田知事の発言として糸魚川に影響することが出た、それに対応してすぐ県に問い合わせをするなり、申し入れをするなりということが必要なんではないかと思ひますね。これまで泉田知事、あるいは県の担当者が言ってきたことは一体何だったのかと。少なくとも並行在来線でないのではないかというふうに県は考えていると、糸魚川から直江津間ですね、新幹線が

ら離れているから。だから「北越」は糸魚川から新潟までを要望していきますよと、働きかけていきますよと言ってたはずですよ。それを貸付料の問題が解決しなければ、要求しないということになるんでないですか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

以前であるわけでございますが、泉田知事と直接、私、上越3市の中での会議だったと思うんですが、その中で、やはり一番糸魚川駅と結節するのが有利という話を、はっきり私も聞いとるわけでございます。ただ、今、JR東と話をしている段階の中で出てきとるのかなと。ただ、我々も直接聞いたわけございませんので、私は直接聞いたことをやはり信じて、我々といたしましては糸魚川で「北越」は結節することが、糸魚川市の大きな願いであるということは変わらなく伝え、また、要望していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

新幹線の負担金の3市の状況を見ますと、糸魚川市は22億1,000万円、上越市が13億100万円、妙高市は7,400万円というふうになっております。糸魚川市は3市の半分以上、半分を超える額を負担しております。信越本線の脇野田駅移設問題で、新潟県と上越市はJRからの一括在姿譲渡を、糸魚川市、妙高市に事前の相談もなく受諾をしております。事後承諾を求められた形であります。

北陸本線は本数減、料金値上げ、ディーゼルワンマン運行、県境の糸魚川市民に犠牲が押しつけられようとしていると。糸魚川市は、3市の中でも一番条件が悪いようにされようとしてるわけです。今、県とか三セク会社が出してるような考え方でやられると、県境の糸魚川市民は犠牲を押しつけられるということになってしまうわけです。そういうふうに思いませんか。それについて、きちんと物を言っていくのが必要なんじゃないですか。糸魚川市としての要求もしっかり主張すべきと、その上で共通する課題で足並みをそろえる、これが大事なんではないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私たちもやはりそのつもりであります。自分たちの主義主張は、しっかり言わなくちゃいけないと思っておりますが、まだそこまでいってない段階と私は思っております。言えるときには言っておりますし、また、いろんなところでは、今、我々の主義主張をどのようにしていけばいいのかというのは、やはりいろいろと今想定をしておりますが、まだそういった段階に入っていないのも現実であるわけでありまして。

今、脇野田の話をしていただきましたが、あれは上越市の1つの物の考え方で進めてきたわけですので、我々といたしましては、今の並行在来線の中で出てきた問題ではないととらえておるわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

糸魚川市が犠牲を負わされるといいますか、しわ寄せを受けることのないように、ひとつやってもらいたいと思います。

東日本大震災で不通となった三陸鉄道の復旧に100億円、津波対策も含めると180億円くらいかかるということですが、三セクの三陸鉄道の復旧に対する支援が、最終的に国・2分の1、自治体・2分の1、鉄道事業者ゼロで決まったそうであります。自治体、2分の1負担については、その90%の後半まで国の交付金で手当てをするそうでありますから、ほとんど負担はないくらいになります。ただし、自治体が鉄道の基盤を持つことを条件に、補助することにしたということであります。

この考え方を北陸新幹線の並行在来線に当てはめれば、基盤は新潟県なり各県が持って、補修等について国が補助すると。運行は三セク会社が行い支援措置がとられるというふうに、発展させる基盤ができたというふうに考えることができると思います。

いずれにしても将来のことを考えれば、在来線の全国的鉄道網は必要でありますし、北陸本線は重要な日本海縦貫線の一部であります。並行在来線が成り立つように、支援する新しい法律制度をつくるように国へ働きかけていただきたい。そして新幹線の負担金は一番多いけれども、不便だけが県境の糸魚川市民に押しつけられる。そういうことにならないように、行政としても取り組んでもらいたいと、いま一度考えがあったらお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、我々は財源が決して豊かな市ではございませんので、仰せのとおり我々は利便性、そしてまた負担を、平成12年に結ばさせていただいたように、やはり応分の負担の中で対応できるような中で、対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

介護保険について伺います。

第5期の介護保険の推計値であります。最終年度の平成26年度では総数も介護度別でも、すべてふやされております。しかし、第3期の最終年度の平成20年度の10月1日現在と、第4期

最終年度の平成23年度の10月1日現在の認定者数を比較してみますと、認定者数は3,111人から3,041人に減っております。介護度がふえているのは要介護1と5で、要介護1が516人から557人、要介護5が504人から611人となっております。このことについて、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答え申し上げます。

第3期と第4期の相違でございますが、介護度につきましては、確かに2、3、4がわずかに減少しておりますけれども、介護度5につきましては増加しているという状況でございます。これは高齢化に伴いましての介護度の重度化という傾向でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

要介護5の方が、ずっとふえているんですね。寝たきりにならないような、そういう介護という点で、リハビリなりいろんな努力をされていると思うんですが、その点はどういうんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

寝たきりにならないようにということでの状況につきましては、介護予防サービスを使いまして、いろいろと事業を展開しているわけですが、どうしても介護高齢者が増加しまして、そして要介護度が高度化しますと、どうしても寝たきりの状態になっていくという実態でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

最後に、市民所得が減っている中で、医療費負担等負担がふえていると。こういう中では、やはり負担の抑制を図るべきではないかと思うんですね。この点について、いま一度お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

今、第5期の計画策定を進めております。要介護度がこれからも増加する傾向の中で、どうしても介護給付費が増加するというものでございまして、介護給付費全体の上昇は避けられないというものでございます。そのことからしまして、介護保険料が増加するわけですが、これにつ

きましては、介護保険料の段階を調整することによりまして、割と基準額を下げる、あるいは低所得者に対する給付額の水準を下げるということで、今、調整を図っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

時間がなくなりましたので、これで終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

次に、鈴木勢子議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。〔25番 鈴木勢子君登壇〕

25番（鈴木勢子君）

25番、鈴木です。

発言通告書に基づき、3項目質問いたします。

1、放射能汚染から子どもたちを守るために。

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故で、かつて経験したことのない放射能汚染に直面している今、内部被爆から次世代を担う子どもたちをどのように守るかが大きな課題となっております。

そこで次の点について伺います。

- (1) 長期間に及ぶ低線量の内部被爆の危険性が指摘されている中で、「日本一の子育て」を目指す本市において、保護者の不安に答えどのように子どもたちを守っていくのでしょうか。
- (2) いかなる食卓でも放射能汚染の少ない食材を選ぶことは当然であります。特に保育園や学校給食などにどのように配慮していくのでしょうか。
- (3) 県は、一般消費者が食材などの放射性物質の検査ができるよう、県内3ヶ所に測定機器を設置の予定であります。本市としても独自に食品への放射線測定器の設置をすべきと考えておりますがいかがでしょうか。
- (4) 何事も偏らない情報の公開が求められている中で、市民に向けてこの分野の情報をどのように伝えてきたのか、また、これからどのように伝えていくのでしょうか。
- (5) 6月定例会「一般質問」で取り上げた安定ヨウ素剤の備蓄については、その後どのようになっているのでしょうか。

2、その後の防災体制と整備について。

東日本大震災を受けて、6月定例会「一般質問」で取り上げた「市民の命と暮らしを守る防災体制について」、その後の取り組みと経過を伺います。

- (1) 地震による津波への対策。
- (2) 災害時における避難所までの誘導體制と避難所の整備。
- (3) 保育所・保育園・幼稚園、学校などの防災教育。

(4) いまだに耐震化がなされていない公共施設への対策。

(5) 原子力発電所の事故時における対策。

(6) 災害ボランティアコーディネーター体制。

3、障がい者の雇用支援について。

障がいのある人たちの就職促進が求められている中、本年6月1日時点で新潟県は依然として全国平均を下回る43位でした。当市における民間企業も合わせた雇用の実情はいかがでしょうか。

また、従業員56人以上の市内企業へ、市は積極的に働きかけているのでしょうか。共生社会を目指し、より広い雇用支援のために関連施設との連携は十分に図られているのでしょうか。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

鈴木議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、保育園や学校等の放射エネルギーを測定し、測定結果は文書や市のホームページを通じて公表いたしております。

2点目、保育園や学校等の給食で使用している食材につきましては、国及び関係機関の方針や検査結果等の情報収集を行い、安全確保に努めております。

3点目につきましては、県が食品衛生法に基づき測定いたしており、既に今後県内3カ所において検査機器の設置を予定しているため、現時点では、市で設置する考えはありません。

4点目につきましては、県が農産物や牛肉、水道水等を測定いたしており、測定結果を市のホームページや広報を通じて公表いたしております。今後も引き続き県と連携を図りながら測定結果をお知らせし、市民生活の安全・安心の確保に努めてまいります。

5点目につきましては、今年度中に備蓄する予定であります。

2番目の1点目につきましては、出前講座や防災講演会、地区訪問懇談会などを通じ、防災意識の向上と自主防災組織の設立を呼びかけてまいります。また、海拔表示、津波避難ビルの指定など、できることから対応いたしております。

2点目につきましては、地区の皆様、特に自主防災組織の皆様と協力する中で、体制整備を図っているところであります。また、避難所の整備につきましては、公共施設の整備にあわせて検討を行うとともに、津波避難ビルの指定をはじめ、各種災害に対応できるように見直しを進めてまいります。

3点目、保育園や幼稚園につきましては、毎月行う避難訓練を通じ、防災教育を実施いたしております。学校につきましては、田中議員のご質問にお答えしたとおりであります。

4点目につきましては、耐震化はできるだけ早期に進めてまいります。それまでの間は、避難訓練の実施により対応してまいります。

5点目につきましては、県における勉強会及び県内市町村における研究会や国の方針、県の原子力事故における対策の考え方の素案の内容を検討する中で対応してまいります。

6点目につきましては、社会福祉協議会が中心となって災害ボランティアセンター運営訓練へ参

加するなど、実地体験を生かした活動によりコーディネーターのスキルアップを図り、関係機関と連携した体制整備に努めております。

3番目につきましては、本年6月1日時点の新潟県の平均は1.54%であります。当市は2.13%であります。また、関連施設との連携は、障害者就労支援施設と市内企業のマッチングを支援し、障害者の仕事の創出と就労に結びつけてきたところであり、今後も障害者雇用の促進を図ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

では、ちょっと順番が逆で、3番目の障害者雇用についてお尋ねいたします。

県平均よりも糸魚川市は若干、2.13と上回っているわけですが、この数字の人数がどれだけか。それから企業でいうと何社かということ、もう一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

障害者雇用企業の人数といいますか、会社の数でございますが、昨年6月では27社から31社に増加ということで、雇用している企業につきましては、4社の増ということでございます。雇用率達成の企業につきましては、14社の52%から22社の71%ということで8社の増で、雇用率達成企業がふえているという状況でございます。

25番（鈴木勢子君）

就労者の人数。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

企業の数については、今、福祉事務所長が答えたとおりでございますが、雇用してる従業員の数でございますけれども、換算値で申し上げれば74.5人ということになります。換算値というのは、重度障害者等を2カウント、あるいは短時間労働者の場合は0.5カウントというような状況がありますので、このような数字になります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

全体の2%ですので非常に少ない数字でありますし、今回、糸魚川市のささえあいプランですね、障害者福祉計画、ささえあいプランというふうに名称をつけてますが、こういったプランの中でも雇用促進についてうたわれておりますので、福祉事務所だけでなく企業支援室ですね、そちらと連携を図って、もう少し数字を伸ばせないのかなというふうに考えておりますが、限界があるとは考えておりませんけども、今後の取り組み、支援室としてのほうの取り組みはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

庁内では福祉事務所とともに連携を図っておりますけれども、市内関係する企業への働きかけにつきましてはハローワークなどと連携をいたしまして、その時々状況を見ながら、随時、障害者雇用の支援策等について企業にご説明をし、促進を図っておるところでございます。今後とも、そのような取り組みを続けてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

当市は企業支援室もありますので、法律で定められている56人以上の企業ですね、積極的に働きかけてほしいと思います。

市民厚生常任委員会では、市内の福祉施設をせんだって視察したわけですが、非常に3障害の特にこれということではありませんけども、皆さんだんだん高齢化し、親も高齢化していく中で、これからの大きな課題になってくるかと思っておりますので、積極的な支援体制をよろしく願います。

次、問題の1番と2番に入ります。1、2は関連しておりますので、あわせて質問いたします。

まず、安全確保については努力して、ホームページ等でも紹介してということではありますが、放射線のさきの講習会ですね、12月1日、それからもっとさかのぼれば11月の防災講演会、それから片田先生の防災教育講演会等あったわけですが、これは2番目の防災に入るわけですけども、こういったところで聞けなかった人が、圧倒的に多いわけですね、当日。この人たちは市民、教育者、職員もそうですが、どういうふうにして、こういう貴重な講演会のことをお知らせしているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

講演会とか学習会のご案内ですが、回覧、あるいは市の広報、あるいは防災行政無線によるご案内、あるいはホームページ等々で、それぞれの講演会によっては異なることもありますが、このような形を使って皆さんにお知らせをしております。

25番（鈴木勢子君）

当日聞けなかった人ですよ。

消防長（山口 明君）

当日聞けなかった方たちに対するということでございますが、今後、また同じような機会をつくっていくこととか、例えばダイジェストというものができれば、ご紹介できるような形があればというふうに、また検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

検討してまいりますということは、可能性も低いわけですけども、非常に貴重な防災講演をしている中で、限られた人数、これをいかに地域に広めるかということも大切だと思うんですね。

それでいろいろ聞けなかった理由は、市民それぞれ理由があるわけですが、DVDによって録画して、それをまた地域の防災会議とかいろんなところで、学校教育現場もそうですけど、利用するというのも図っていいんじゃないかと思ったんですが、この取り組みはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

今ほど私のほうでお答え申し上げましたダイジェスト等々というのは、そういうことも含めてということでございますし、それから各地区へ出前講座等で参らせていただいておりますので、そういう機会も通じまして、そのような内容もご紹介をさせていただいておりますし、これからも行ってまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

そうすると今3つの講習会、講演会を挙げましたが、これはもうDVDで収録されているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

こちらについては講師のほうの先生のご了解をとっておりませんでしたので、あるいは撮影は勘弁してくれということもございましたので、今までの講習会については、DVDの収録はしていません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

非常に内容がよかっただけに残念ですね。3月に事故があって、これまでの間、こういった取り組みをしていないということも大きな課題かなと思います。

それで1のところ項目を挙げましたけども、ちょっと順番が逆ですけど、安定ヨウ素剤の備蓄、市長は今年度中ということではありますが、今年度中ということは3月までですけども、そうすると1年かかったわけですね、検討していくのに。ここのあたりが何でここまで、まだ備蓄されてないんですが、かかってしまったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答え申し上げます。

安定ヨウ素剤につきましては、現在、県のほうも、その備蓄時期については明確にされておませんが、全県配備ということで先日来、過酷事故の対策に対する素案の中で申されておりました。あるいは、国のほうの現在の災害の検証に対する結果のほうも正式に出ておませんが、県のほうが国に先んじて出した経過がございます。したがって、安定ヨウ素剤につきましては、今までの中でもいろいろ議論がされていることがありましたが、本市といたしましては、やはりこれは整備をするべきだ、配備をするべきだということで、配置するようになりました。したがって、そのような安定ヨウ素剤に対する、非常に今まで調査する必要がございましたので、このような時間がかかったということがございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

非常に時間がかかったわけですね。12月1日の放射線講習会の資料34ページを見ますと、安定ヨウ素剤について、これは茨城県の資料であります。これがほぼ全国共通だと思うんですけども、新生児から40歳未満までの数字を挙げてます。7歳以上から粒になるわけですね、1粒。新生児から7歳未満までは溶液ですが、この講習会の試算でいくと、おおよそ予算というのはどれぐらいの値に、糸魚川市の場合、該当者は幾らぐらいになるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

この安定ヨウ素剤の備蓄につきましては、災害時の救急医療という立場から健康増進課の方で備蓄の作業を進めているところでございます。

今ご質問の7歳未満の方、これは丸薬を飲めませんので粉剤、粉を水に溶いて、それから甘いシロップで薄めるというものでございます。これは0歳から6歳までになりますが、これにかかる粉剤、それから39歳までの丸薬と合わせまして約30万円と予想しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私は6月定例会の一般質問でも申し上げましたが、使わないのにこしたことはない。6月の定例会以後、非常に国の方針も変わりました。1人2錠という計算で、上越市の例も挙げて、上越市は44万錠ですかね。ところが、もう40歳以下でいいということで数字も低くなって、それから、どういうところに設置するかというのも非常に具体的になりました。6月からこの間、6カ月経過して予算にしたら30万円、これが速やかにできなかったということは非常に残念ですが、今年度中に備えるということで、できるだけ早く備えてほしいと思います。

次の質問に入ります。

順番がちょっと前後してわかりにくいかと思いますが、保育園とか学校ですね、防災教育も実施しているわけですが、具体的に例えば津波の場合、津波を想定して、すべての学校、保育園でやっているとありますが、例えば糸魚川小学校、まち中のとても児童数が多い学校ですが、一番多くて、次、東小学校、それから東保育園、横町の中央保育園、ここのあたりは津波を想定して、どういう避難するように指導してありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

保育園、幼稚園の津波に対する避難訓練につきましては、各園で海拔の低いところにつきましては、できるだけ近くに津波をある程度避けられる高さの建物に、まず第1避難所を設定していただいて、時間がある場合については、さらに高い場所へ避難するということを想定した避難訓練をやっていただいております。

ちなみに、一番近い学校である糸魚川小学校につきましては、校舎自体もそれほど高くない状況もありますので、市民会館を使ってこの市役所のほうへ避難するというので、先般、避難訓練を実施いたしました。小学校からここまで約13分程度で避難が完了するということがわかりました。

以上であります。

25番（鈴木勢子君）

東小学校と保育所、具体的に名前を挙げたんですよ、東小の避難はどうですか。

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

東小学校については、具体的に避難場所については東小学校の一番高い階に避難をする。近くに高い場所がないという関係で、そういうふうに扱っております。

25番（鈴木勢子君）

保育園。

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

中央保育園につきましては、近くに民間のホテルがございます。そこを第1避難所として避難することを協力を求めて、了解を得たということで聞いております。

25番（鈴木勢子君）

横町。

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

東保育園につきましては、

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後1時48分 休憩

+

午後1時49分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

中央保育園は近くのホテルのほうに避難所の協力を得て、そこに避難するという形で避難訓練をやっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

今、全部質問できませんので、4カ所についてお尋ねしたわけですが、糸魚川小学校については校舎もそれほど高くないので、ここの市役所に避難ということで、ほかについては民間のホテル等ですね、これはもう津波避難ビルとして、市としてきちっとした協定は結んであるわけですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

こちらのほうでつかんでる形では、市として結んであるということではなくて、保育園のほうと

ビルの所有者が話をして、借りることで了解を得たということで聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

課長ね、市としてじゃないでしょう。今、市としてと言わなかったでしょう、その現場の保育園でしょう。市としてやらなきゃいけないでしょう、子ども課として。それぞれの園にらせてしまうんですか。命を守るんですよ。何か本当に真剣味がない。

それぞれの例えば今、私は東保育園、それから中央保育園を例に2つに挙げましたが、まだほかにもあるわけですね。みんなそれぞれの園の園長に任せるんですか。子ども課として民間のホテル等高いビルですね。できないんですか、現場任せなんですか、お任せ主義でしょう、どうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎子ども課長。〔教育委員会子ども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会子ども課長（山崎光隆君）

議員のおっしゃるとおり、その辺どういう手続等が必要なのか、これから検討いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

私ね、片田先生の防災教育の講演会を聞いて、課長も行ってましたよね、教育長も行ってましたよね。教育委員会の現場の先生も行ってたんでしょう。ああいう講演会を聞いて、時間オーバーで延々と片田先生は述べられたんだけど、それから時間がたってても現場任せですか。こういうことを子ども課としてきちっと、その地域、地域、今2園のことを例に挙げましたが、まだたくさんあるわけですよ。やれないですか。きちっと協定を結んでいけば、民間のビルもきちっと、どんなことがあっても市と結んでいるわけですから、津波ですね、受け入れてくれるでしょう。それぞれ任せているというのは、私、これ手ぬるいと思いますけど、教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

議員が言われるとおりだと思います。今、例えば学校から逃げて、近いところに高い自然のものがあれば、別に協定は必要ないと思いますが、こういう公共のものに対しては、教育委員会としてもきちんと前向きにその関係者と話し合いをしたいと思いますが、すべてがそこであるという受け取り方を子どもにされてしまっても困るなという気持ちはあります。ただ、とにかくきちんとした打ち合わせだけはしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

打ち合わせをしたいと思いますじゃなくて、していないんでしょう、これからでしょう。3月から今はもう何カ月、9カ月ですよね。防災教育講演会、松澤先生の防災講演会、放射能講習会、こういったことをやっていて、皆さんの耳、こっちからこっちですか。そうじゃないでしょう。私ね、もう少しこの防災に関しては、あっては困ることなんです、地震とか津波というのは、もうないのにこしたことはないんですが、これにいかにも備えるかということ。だからその後、その後というのは6月定例会以後、この6カ月間、皆さんは何をやっていたかと問いただしているわけですよ。そここのところの認識を問うてるのに、何かこれからだと、もう始まりませんね。

じゃあ2番目の4点目、いまだに耐震化されてないところですね。これから、市長もそれまでの間、我慢してくれということですよ、山ノ井保育園も含めて、上根知保育所も耐震化されてないでしょう。スピード感をもって教育長、やれませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

山ノ井保育園に対しては、今までの説明してきたとおりですが、上根知保育所に対しては、前倒しをして取り組んでいくという形で現在動いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

山ノ井保育園は確認の認可がおりない、構造的にどうこうあるんですが、もとをただせば耐震化が進んでいないから、保護者も早くやってほしいと、早く建てかえして、これが根っこですよ。確認がおりない、構造計算がどうこうっていうのは後からのことで、とにかく早くやるということは未耐震だったからでしょう。そこですよ。

だから上根知も人数的には少ないです、山ノ井保育園の5分の1、今は5分の1以上いますけど、早くでしょう、危ないわけですよ。まして山間部の2階建て、雪が降る、2メートルの積雪でもほったらかしといた。ここの現実ですよ、早くやらなきゃいけない。そこを今、債務負担行為で600万円ですかね、予算が上がってる。スピード感をもってやらなかったらどうなるんですか。現場の保護者に、またどんなものがあるのか、どういう方法がいいのか問うてみる。設計の実力も何も無い技術屋が、設計事務所でもいいですよ、どばっとカタログを持って、さあ、床、壁、天井、保護者の皆様、どうしますか、ここから選んでくださいというようなものと同じなんですよ。

キーパーソン、先ほどの津波の高層ビルもそうですけど、こども課でしょう、つくったわけ、日本一を目指すんでしたら、それぐらいきちっと青写真を描いてこうだと。私たちはこういうものを進めます、へき地保育所であるかどうかは別として、耐震化に向けて早急にこういうものを建てかえますと。何でその設計を早く出せないかって。債務負担行為でやったから、さあ、これから

現場と打ち合わせてどうこうと、ちょっとワンクッションあり過ぎると思います、教育長。自分の家族、子ども、孫とってください。その認識がないの、危機感が、何事もそうです。スピード感を持ってやれますか、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

上根知保育所の建設に関しては、この秋に建設場所の地域の決定を受けまして、早急にこの後、設計等をするために補正予算を計上したものであります。通常よりも早い状態で、この後、設計、それから建設にかかれるものと、そんなふうに進めていきたい。できるだけ早く耐震ができた新しい園舎ができるようにしていきたいと、そんなふう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

山ノ井保育園も未耐震、耐震化がされてないというところがスタートでしたので、これだけ工事が延期され、開園が延びるようでしたら、何らかの方法を打たなきゃいけないんですよ。しばらくの間、待っててくださいって、しばらくの間、何かあったらどうします。そこのところですよ。ただ新しい建物ができて、横町のあちらに移ればいいっていう、そういうことじゃなかったんです、もとはね。だから、その認識が少しずつ構造計算がどうこう、確認がおりないというところで、何かぼやけてしまったかなとありますが、もとをただせばそういったことだという、その建てかえ工事だったということを2つの、上根知保育所も含めて山ノ井保育園も認識してほしいと思います。

それから、あとはこの2番目の大きいところで、原子力発電所の事故時における対策ですよ。これがやはり県、国の指針がなかなか出てこないというところで、非常に受け身ですよ。国、県のことを非常に待ってるわけ。もっと私は積極的に、こうだっていうことができないのかなと思う。

それで1番目の質問と重複するんですが、どういうふうにして放射線のことを伝えていって、ホームページ云々があるんですけども、今、課長もご存じのように教育現場に、文科省がつくった副読本ですよ、これが配布されますね。今までは経済産業省と文科省が昨年2月につくったもので、「わくわく原子力ランド」というのが、小学生向けだけにありましたが、これからは中学、高校向けで、教員用のものもついてきますが、時間がないので、例えば「放射線について考えてみよう」って、小学生のための副読本。これは原子力の2番目の5点目の事故時における対策とも絡むんですが、この冊子について文科省のホームページからとった18ページですけど、これに関して教育委員会はどういうふうな見解を持っていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

今、議員からご質問がありました件は、この冊子のことでよろしゅうございますか。

まだ各学校のほうには配布されておりません。3月末をめぐりとして各学校へ配布するということが連絡を受けております。事前に文科省のほうのこのホームページからダウンロードすることができますので、我々のほうとしてもこれを見させてもらいましたが、原子力についての基礎的な知識、放射線についての基本的な知識が非常にわかりやすく、発達段階に応じて少し詳しくそれを書いてあって、これをもとにしながら放射線の学習が学校現場でできるなど、そんなふうに考えておりますし、配布される前に各学校の教師には1冊ずつ見本がいつてますので、それを使って事前学習をしてもらうようにしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

まあ、そういう認識だったんですね。私、ちょっと驚きました。文科省は、どうしてこの副読本を配布するのかというのは、これもホームページで11月、文科省の中川大臣の名前で記載されているわけですが、最近、国会でこの副読本の作成が非常に問題だということが出たんですけど、課長はこの副読本を作成した問題点、ご存じですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

すみません。その点については十分理解しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

理解というよりもね、こういうことですよ。朝日新聞ですけども、これは3月9日、大震災の前日に、文科省が副読本改訂事業の一般競争入札で、日本原子力文化振興財団というところが落札したわけです、2,100万円。ところが2日後に事故が起こって、内容を全面的に見直すということで、委託料を3,700万円に増額したんだけど、委託先を変えなかったんです。つまり日本原子力文化振興財団なるものを調べると、電力会社の社長とかOBで構成されて、事故が起こる前の入札だったんですが、事故が起こって、どうも委託先がまずいんでないかということで、委託先をでも変えなかったんです、予算の増額はしたけども。それで中川大臣は、やはりこれはちょっとこういう団体にこれをつくらせた、委託したんだけど、適当でなかったというのを答えている、それが朝日の記事なんですよ。

私も小学生のをずっと見ましたら、やはりこの質問の2番目の5の原子力発電所の事故時における対策、これは大人も子どもも含めてですが、これでは小学生の子どもはわからないと思う。放射線について考えてみようでしょう。スイセンから放射線、空気からも放射線、いかに自然界に放射

線がいっぱいあって、放射線って何か怖くないみたいな、今までの安全神話を押しつけるような内容、ここはやはりもう事故があったわけですから問題だなと。

ですから糸魚川は日本一の子どもをはぐくみたいならば、この副読本に依存しないで、独自にやはり糸魚川市は世界最大出力の柏崎刈羽原発から80キロ圏内、北陸電力の志賀原発から100キロ、こういう位置にありますと。それでこういうときは、こう、それから安定ヨウ素剤も備蓄するということですから、緊急時にはこういう飲み方をしましょうとか、訓練も必要ですけど、そういうものを独自につくるということも大切かなと思う。これが日本一ですよ、どこもやってない。

これが非常に今度は問題になってくるんですよ、配布されたら。もう多くの方が指摘してます、中川大臣も言ってるわけですからね。ですから独自に、やっぱり防災教育の一環として、津波も大事ですよ、もう重要なこと、でも原子力にも挟まれてるわけ。風向きによっては、非常に怖いですよ。何キロ離れてるからいいとかじゃないんです。風向きによっては、どこまでも飛散されると思うんです。そこのところを私は教育委員会、もう少し認識してほしいなっていうふうにとらえました。やるのが、こども課の1つの組織でとても大変だと思いますが、これは日本一を目指す以上は、やってほしいなという思いです。

次の質問なんですが、飛び飛びで1と2とあわせて、ちょっとごちゃごちゃとなっておりますけども、測定器ですよ。今、糸魚川市は4台保有しているわけですが、この4台の用途は、それぞれ違うと思うんですが、担当課として説明してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

4台保有しております。そのうちの1台については、サーベイメーターということで、これは環境生活課で保有いたしまして、定期的に市内8カ所の測定に使っております。あと3台については簡易型の放射線モニターということで、これについては環境生活課と、それから能生事務所、青海事務所に1台ずつ配置して、必要があれば使うという形の体制をとっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

3台は非常に簡単なもので、1台が約60万円ぐらいですか、持ち運び可能な簡易な測定器の総称をサーベイメーターと言うそうなんですけど、これはあくまでも食品、要するに食べ物、食品の放射性のものを検出する機械でなくて、ですからセシウムの測定はできないですよ。大気中だから空間線量ということですね、専門ですよ。

私がここで、今、一般質問で問うたのは食べ物ですよ。内部被ばくの食べ物の測定器が、糸魚川市でも備えられませんか。上越市まで行って、できる道は県のほうでつけたんですが、なかなかできないと。県のホームページでもいろいろハウレンソウとかキュウリとか食材を決めてやって、

ホームページに載ってますが、そうではない。もっと地元のもの、手身近なものでも測定できる食品ですよ、空気中じゃなくて。そういうものを備えられませんかというふうに問うたわけですけど、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

今ほどのご質問ですけれども、県のほうで今言ったゲルマニウム半導体検出器といって、食品も測る機械でございますが、これは県のほうで3カ所、恐らく上・中・下越の保健所に配置されるというふうにお聞きしております。今現在は、この3台をもって利用していくというような形をとらせていただきたいということで、市独自としては、この機械を設置する考えは今のところはないということで、ご質問にお答えさせていただいたとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

ゲルマニウム半導体については高額ですし、重さも非常に重たいということですけど、その中間の簡易型のもの、セシウムも測定できるものがありますよね。こういったものを私は市単独で備えて、何も学校とか保育園の子どもたちの食品だけを測定するんでなくて、例えば観光部門、交流人口を拡大しようという中で、糸魚川市でとれる糸魚川市のお米は、独自にどんどん検査して安全ですと。それから海でとれる、例えば今だったらカニとかも独自に検査したら検出されてないとか、イカとか、どんどんそれを観光パンフレットにPRしていけばいい。

1台買ったことを、1つの狭いところの子どもたちの給食だけじゃなくて、広く観光にもPRできるんですよ。今、米とか魚も言いましたけども、いろんなありとあらゆる山菜も含めて四季折々、それで観光PRして観光パンフレットにそういったものを書いたら、ジオパークの交流人口とリンクするでしょう。そういうところって、できませんかね。それで今、中間の機械が250万円くらいってなっているんですが、これは購入するに当たって市が購入するとき、国とか県の補助金ってありませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

購入に当たっての国の補助というものは現在ありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

そうすると単独持ち出しということですが、これが観光のPRの戦術となったら、広告宣伝費にもなりますよね。保坂 悟議員が見附市のことも言われましたけど、見附市もこれは空間線量ですよ、大気中のものを測るもので食品ではない。見附は県内初というふうに新聞で報じられましたけども、糸魚川市は食品で単独で初、これはもう戦略として十分使えると思いますけども、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々としては、やはり食の安全というのを売りにしていきたい部分もございますので、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

検討させていただきたいということですから、その検討の意味はどういうことかというのは、私は前向きにとらえております。

ホームページをネットで見ると、いろいろなドイツ製のとか、もうどんどん、食品も水とか土壌も検査できるものがあるんですよね、値段もまちまち。ですからゲルマニウムの重さが1トンぐらいの1,500万円ぐらいする、そういうものはなかなか手が出ないけども、何百万円の範囲だったら、観光のPRも含めた宣伝費として、これは前向きにとらえてください。

最後になりましたが、もう一度、消防長にお尋ねします。

避難所の整備でリヤカーとか、そういったものも非常に、私はいざというときに役立つと思うんですが、これも地域にお任せしないで、市単独でもっと積極的に地域に落として、こういう補助を。県に聞いたら、県の防災室では予算余ってるという。ですからお任せじゃなくて、やれませんか、折り畳み式のリヤカー設置。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

リヤカーの備蓄についてですが、昨日もお答えさせていただいておりますけれども、各地区の自主防災組織の中で、その整備をされている方々がございます。それで、その自主防災組織の資機材の整備補助として出させていただいております。現在、市内のほうでは5組織のほうで準備されておりますので、これからも応援をしていきますし、あるいは市のほうの備蓄の中にもリヤカーはございます。そういうことで、これからも大いに整備をしていっていただきたいというふうに支援をいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

鈴木議員。

25番（鈴木勢子君）

なかなか地域でも、このリヤカーにも補助金がついて設置されるということを知らない方が多いので、消防としてもどんどんPRして備えてほしいと思います。

それから避難所への誘導体制も、なかなかまだ完備されてないと思いますが、ここのあたり外国語も含めた避難の標識が必要かと思いますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

今回の質問を認めますけれども、0秒質疑というものは、あんまり私はなじまないというふうに思っております。0秒、持ち時間を切ってから質問されましたよね。今回は認めますが、なるべくそういうことをしないようお願い申し上げます。

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

現在、海拔表示というところでは外国語表示を入れながら出させていただいておりますが、また、誘導表示も当然そういうことも考えながら、進めてまいりたいというふうに考えております。

議長（古畑浩一君）

以上で、鈴木議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩とし、再開を2時30分といたします。

+

+

午後2時18分 休憩

午後2時30分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

竹田教育長より発言を求められておりますので、この際これを許可いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

先ほどの鈴木議員の質問に対して、山崎課長が今後の方向についてご説明いたしました。教育委員会内部での統一した見解が、まだきちんとまとめられていない状態であると。ただ、そこで少しの時間をつかったんですが、まず、じゃあどのように取り組むのかということですが、アンケートにはきちんと回答したということです。それから、そのアンケートに回答した上で、放射線の正しい理解を職員に深めてもらって、そのための研修を積み、自信を持って職員が指導できるように今後取り組むと、こういうふうに一部発言の訂正をお願いしたいと思います。よろしくお願いま

す。

議長（古畑浩一君）

発言の趣旨に対する修正の発言であります。

お諮りをいたします。

ただいま教育長の修正につきまして、これを許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認め、さよう決しました。

なお、通常 of 字句や数字の訂正と違い、方針の差を修正するということにつきましては、議長といたしましては好ましくないというふう to 判断いたします。質問中に、そうした趣旨、方針の変更につきましては正確に伝えるように、議長といたしましては注意を申し上げます。

それでは、引き続き一般質問を行います。

次に、池田達夫議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。〔16番 池田達夫君登壇〕

16番（池田達夫君）

日本共産党市議団の池田達夫です。

発言通告に基づき質問をいたします。

1、並行在来線の問題について。

並行在来線の問題は今が正念場、今が踏ん張りどきであります。いよいよ待ったなしの課題となっております。11月に並行在来線株式会社の基本方針が決定されよう to しましたが、それが年明けに持ち越されました。その原因は、現在の会社の方針案が多くの矛盾、不安、不十分さを抱えており、とても住民の理解を得られていない。そのことも1つと言われております。

マスメディアは10月中旬のある新聞では、「北陸新幹線開業に伴いJRから経営分離」「並行在来線立ち往生」「ディーゼルカー運行範囲めぐり住民から猛反発」と、ディーゼル化の安全問題も含めて報じております。その中で、今、糸魚川市として、この運営会社の基本方針案にどのような態度をとろう to しているのか、市民が注目をしております。それは、これからの糸魚川市の発展にとっても重要な問題となっているからであります。地域に愛され、持続可能な鉄道を目指してと、安心・安全な公共交通をつくっていくという立場から、以下の点について質問をいたします。

(1) 新潟県並行在来線株式会社の「運行の課題と方向性」への糸魚川市の態度について。

いつ、どのようにして決定されるのか。

市民の声は、どのように反映されるのか。

新潟県並行在来線株式会社の方針はいつ、どのようにして決定されるのか。

(2) 糸魚川市と富山県及び富山県東部5市町との連携について。

独自の協議の必要性があるのではないか。

富山県側の糸魚川駅までの電車の運行をどう捉えているか。

(3) ディーゼル車の安全性の問題について。

安全問題・環境問題をどう考えているか。

長大トンネル内の事故への対応はどうなっているか。

トンネル内の「避難路」、これは十分でしょうか。

2 柵口温泉・権現荘の当面の改革についてであります。

8月に温泉センターの民間への譲渡の問題が挫折して、当事者と地元、それに利用者をはっきりとさせました。それから4カ月、それでは温泉センターは今後どうなるのか、糸魚川市はどう希望のある方針を出してくれるのかと関心が高まっております。同時に、権現荘自体も苦しい経営が続いております。権現荘のあり方も含めた抜本的な改革が今要求されております。

11月15日の総務文教常任委員会、12月1日の能生地域審議会では、当面の改革について報告がされております。そこで、これらの問題を中心に、次の点について質問をいたします。

(1) リニューアル計画の進め方について。

(2) 温泉センターの今後の方向性について。

(3) 上南地域全体の振興プランの内容とスケジュールについて。

振興プランの骨子、これをどう考えているのか。

いつまで、どのようにして策定するのか。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

池田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、新潟県並行在来線株式会社から市民、議会等に対し、疑問点など十分な説明を尽くし、市として安全と利便性、経済性が確保できると判断した上で決定する予定であります。

2つ目につきましては、対話集会やワークショップなどで意見をいただいております。今後、その意見も踏まえて会社が詳細な経営計画を策定するまでに必要な要望を出してまいります。

3つ目につきましては、取締役会において決定される予定ですが、時期は未定であります。

2点目の1つ目につきましては、新潟県と富山県が調整をいたしており、情報交換や連携は必要であると考えておりますが、市といたしましては、市レベルで情報交換等を行っております。

2つ目につきましては、糸魚川までの乗り入れは新幹線との接続や乗りかえの不便解消の面から必要と考えておりますが、今後の両県の調整により、利便性の高い運行形態を望むものであります。

3点目の1つ目につきましては、ディーゼル車や電車を問わず、安全確保や環境への対応は鉄道会社として最も重要であると考えております。

2つ目につきましては、会社により万全の体制で臨まれるものと考えております。

3つ目につきましても、今後、運行している施設であります。安全に対しては一層の配慮を要請してまいります。

2番目の1点目につきましては、市が一方向的に計画をするのではなくて民間のノウハウを活用し、必要最小限で効果的なりニューアルを実施してまいりたいと考えております。

2 点目につきましては、権現荘での受け入れ体制を整える中で、入浴機能を権現荘に一本化する方向で協議、検討してまいりたいと考えております。

3 点目につきましては、上南地域の自然資源や既存施設を活用し、地域振興を地域全体、また住民全体で検討していただけるように考えていきたいと思っております。当面は、話し合いや研修会を進めてまいります。

以上、質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

並行在来線の1点目の から、いつ、どのように決定されるかということで、今、庁内では、具体的にどの段階まで検討されているのか。当初は10月に取りまとめ、11月に運営会社の取締役会で決定するというお話もありましたけれども、基本的な態度、その方向性。まだ白紙の状況であるということではないと思いますが、どの段階まで検討がされているのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

並行在来線の会社のほうから運営の方針等を打ち出されまして、それぞれ議会、あるいは市、あるいは市民集会等で説明してきたわけですが、まだまだいろんな疑問点、あるいは問題点があることから、これらを今調整といいますか、どういうふうな具体的な方法があるから今調査、あるいは内部で検討しとるところでありますので、そこらの経過を見た中で、今後決めていきたいという考えであります。今の段階では、いつというような判断はできかねると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

当初10月と言われたものが大きくおくれている。その原因もいろんなことを言われましたけども、そうすると議会への提案というのは、どんな時期を考えたらよろしいのでしょうか。今回の12月議会、これはもう無理ですね。そうしますと、次は3月になるのか。3月というと年度末ぎりぎりですね。来年度、新年度の見通しが立つのか立たないのか、ぎりぎりであります。臨時議会の開催、いろんな手があると思いますが、どんなスケジュールを考えたらよろしいのでしょうか、対議会への説明という意味で。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

議会のほうには特別委員会を設置していただいているわけですので、その都度、それらの状況を判断しながら説明をしてきとるわけですので、しっかり会社の意向、あるいは県、あるいは3市の状況、あるいは当然、市民の意向等をお伺いする中で、しっかり説明する中で報告し、あるいは協議をしてまいりたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

市民の声はどのように反映されるのかということで、今、市民の声という点では、大系線・北陸線を守る会の運動があります。守る会は、この間も精力的な活動を行ってきております。「軌跡」という守る会のニュースがあります。全議員にも配付になりました。同時にチラシも全戸に配布されており、我々のところにも届いております。

そのニュースの内容で、10月18日の午後、市のほうと懇談を持ったということであります。その懇談の中には5つのテーマがあり、4番目に優等列車と高速バスの運行継続問題、5番目に並行在来線の運行の方向性と課題への取り組みについてというふうに書いてあります。そして懇談の概要（市側の回答）として、5番目に、そのほかとして次のように書かれております。

そのほか与党合意の見直しやJR資産譲渡価格の適正化、ディーゼルカーの安全性、富山県との連携強化、デッドセクション移設問題、北陸線沿線駅の駐車場確保等については、今後も県及び三セク会社と連携していく。

もう1回言いますけど、これは懇談の概要（市側の回答）とあります。それでお聞きしたいんですが、産業部長、この懇談会に出席されたと聞きますが、このニュース、チラシも含めてごらんになっておりますね。そして、ここに書かれていることは、事実でありますね。その点、まず確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

私もその懇談会には出席をいたしまして、そのような形での意見のやりとりをさせていただいたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

わかりました。

それでは、この中で幾つかあるわけですが、政府・与党合意の見直し、ディーゼルカーの安全性、富山県との連携強化とありますが、これは後でも質問しますので、ここで言う与党合意の見直しということについて、10月18日以降2カ月近くたっておりますが、この与党合意の見直しということについて何か県、あるいは三セク会社との連携、協議、そういったものがあったら教えてくだ

さい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

与党合意の見直し等は、県のほうでも例の貸付料の問題等で、いろいろなところで意見を述べておりますが、いまだにまだその回答が来ないという中で、そういうところが、またできるだけ早くその辺の情報がないと、なかなか並行在全体のその経営計画にも関係するところであるので、もうそれはできるだけ早く情報をお知らせ願いたいということで、話をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

この与党合意の見直しという問題、やっぱり大きな問題、かつ中心的な問題であると思います。前提にもなる問題だと思います。私もこの場で、この与党合意見直し、この初心に戻る、原点を忘れるなという立場から幾つか質問、提起をさせてもらってきております。

この3月の大震災というのは、鉄道の重要性というものを改めて浮き彫りにしております。公共交通としての鉄道の根本的な見直し、今、問いかけております。原発の安全神話が崩壊したように、公共交通としての鉄道を国の責任で再度見直すべきではないでしょうか。

このような3.11以降のまた新しい状況の変化に基づいて、今のこの政府・与党の合意の見直しというのを、改めてどのような形でとらえておられるかお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新幹線整備に当たっての与党合意のこの合意事項に基づき、それぞれの北陸新幹線、あるいは九州、あるいは東北新幹線を整備してきてるわけでありますので、今すぐこれをどうかということではないかと思っております。しっかり、やっぱり国としてこちら辺のどこをまとめの中で方向を出していただかないと、このことについてはなかなか、要望はわかりますが、1自治体でこれを云々というものではないような感じがしております。ただ、そのためにも県知事がいろんな角度から、やっぱり費用の負担になることから、国あるいはJRの負担を要求してるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

08年の発表でありますけども、沿線の市会議員、県会議員、首長へのアンケートの中では、この与党合意の見直しということで、ぜひ見直してほしいというのが82%、見直す必要がないというのが3.3%、その他13.1%はありますけども、このように確かに08年のアンケートではあ

りますが、大きな声になっている。先ほど言いましたように、ましてやこの3.11の震災以降、さらにその声がやはりあると思うし、そういった形での取り組みというのは、とても重要になっているかと思えます。ぜひとも協議に向けて大きな声を、この地元からも上げていってほしいと思います。

さて、市民の声をどうとらえるかということで、先ほど紹介しました大糸線・北陸線を守る会の皆さんの大きな精力的な行動について先ほど紹介しましたが、市民の声、これをどう把握するかという立場、あるいは、さらにどのように把握しようという立場から、何かほかの一般の市民の方から例えばアンケートをとる、何か意識調査をする、そういったことを考えておられましたら教えてください。

議長（古畑浩一君）

池田議員、ただいまの発言の中で「くびなが」という表現をされておりますが、これは正しく発音をしていただきますようお願いをいたします。

どうぞ、池田議員。

16番（池田達夫君）

失礼しました。

首長です、各市町村長、そういう意味です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

当然、市民のいろんな意見を聞くということでは、当たり前なことだと思っております。そのためにも会社としては集会を開いたり、市としましては、いろんな団体での要望を受け付けをしたり、また、議会としていろんな意見を聞いておるわけですので、このことをしっかり守りながらいくべきだと思っております。アンケートというのは、1つの方法だと思っておりますが、ここまで論議をしてある程度もう課題が絞られてきてるわけですので、この中でアンケートをとったからということで、どういう方向にいくかというのは、なかなか即、難しいんじゃないかなと思っておりますので、いろんな角度から意見を聞いたものをしっかり集約して、糸魚川市が利便性、あるいは問題になっている安全性のことを確保するよう努めていくということが、仕事かというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

いろんな団体から話を聞く、市民の意見を聞くというのは大いにやっていただきませうけども、先ほども紹介しました同じ北陸本線を守っていく立場では、大糸線・北陸線を守る会というのがありまして、先ほども言いましたように一生懸命、今活動されておられます。情勢は緊迫しております。この守る会との懇談というのを10月に引き続き、いろんな宿題も出されておりますけども、10月に引き続き持つ必要が私にはあるのではないかと思います、そのご予定はどうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

三セクの会社に直接かかわるもの、あるいは糸魚川市独自の課題等があるわけですが、やはり三セクの会社にかかわるものについては、会社が一定の説明の方向、あるいは現状がどうかということをしっかり説明をすと言うてるわけですので、そこら辺をしっかり踏まえた中で、お話をする機会というのは、当然、出てくるんだろうと思ってます。市に直接課題となる要望については、それぞれお聞きをする中で、いろんな上部機関等に話をしてくれてるわけでありまして、やっぱりそこら辺はしっかり特別委員会等があるわけですので、その中で話をしていきたいと考えております。

ただ、やはりいろんなところで、ただ漠然とやってもだめだと思ってますので、ある程度の転機点等があるんだろうと思っています。そのときに、しっかりと意見交換をすべきだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

市の決定もおくれています。そして運行会社、第三セクターの方針決定というのもずれ込んでいるということになっております。何でそうなったのかということ、例えば先ほどの市の問題については明確な答えがなかったように思うんですが、第三セクター、県の運行会社の決定もずれ込んでいるという状況があるわけですね。それはどこに原因があるんでしょうか、改めてお聞きしますけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市の決定がなされていないというお話がありますが、決定できる状態ではないという状況でありますので、それはご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

おっしゃるとおりです。決定できる状況にないという原因はどこにあるのか、県の三セク会社の場合はどこにあるのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

これは今まで田中議員、新保議員が質問してきたことに尽きるんだろうと思います。池田議員も質問してるわけでありますので、それらが課題だということで、なかなか決定に至らないということだと思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

2番目のとりわけ富山県関連、東部の5市町との連携についてということでお話されてます。

議会サイドではこの間、魚津の市議会の関係する特別委員会との懇談等を含めて行っております。また、5市町の特別委員会の正副委員長会議にも、私たちの議会のほうの正副委員長が参加しているような情報交換、意見交換を行っております。

つい先日も11月29日、同じような会議が開催され、行ってきました。何か先ほどの話だと、行政側も同行されたという話ですかね、ちょっと私、そのように受け取ったんですが。そして11月29日の会議では、この中で各議会が12月定例会、今、恐らくやられているでしょう。次のことを盛り込んだ意見書の可決を目指すことで一致をした。

1番、現行のサービスを低下させない、2番、各自治体の負担を重くしない、3番目、県境をまたぐ一体的な運行を求める。このようなことで各議会、富山県の東部の5つの議会が、こういった意見書を上げていこうではないかということで一致したと報道されております。ご存じですね、富山新聞、11月30日付に、小さいんですが報道されました。恐らく北日本新聞にも報道されているのではないかと思います、ご存じですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

まず29日は、行政としては同行しておりません。その辺の会議があるということはお聞きをしております。それから決議については、それは承知しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

線路というのは、つながっているわけですね。富山県へ行くとレールの色が変わるとか、富山県の県境の真上のラインの線路がつないであるとかということではありません。もう100年近い歴史があるこの北陸本線です。昔から国有鉄道、国鉄として100年近い年月、頑張ってきたというのが、この北陸本線なんですね。そこを隣の富山県がそういう動きをしているという中で、やっぱりいろんな形での連携というのが、より具体的に、より細かく、今こそ必要なときではないか。ちょっと遅いかなという気がしないでもないんですが、手おくれではありません。今からでもする必要というのがあり、すべきときだと思っております、もう一度いかがでしょう、この点。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先ほどの前の議員の説明の中でも話しましたように、やっぱり富山県へいろんな方が利用してるわけですので、当然、市民の利便性から考えると連携は必要だと思ってます。

富山県が先般、経営の概要の素案を打ち出されました。その中では、県境をまたぐものについては、相互乗り入れの検討をしたいと言っております。新潟県のほうも同じような考えでありますので、当然、県の中でまずはお話をさせていただいているというのが現状であります。また、これについては当系魚川の議会からも、いろんな角度から富山県と連携を持っていただいておりますことをありがたく思ってますが、行政としても当然それらの情報を得る中で、やはり市民の利便性にかかわることありますので、しっかり要所、要所の折には富山県、あるいは魚津市、あるいは入善のほうですか、そちらの近いところからまず情報交換を、同じ考えの中で取り組むということでの話し合いの中では、そういう方向でありますので、しっかりそこら辺は踏まえながら、対応してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

今の話と関連しますけども、10月14日に富山県の並行在来線対策協議会というのが、東は糸魚川市まで電車を走らせてもいいよという報道がありましたね。その3日後の10月17日には、富山県知事とJR西日本の社長が本社で会談をして、先ほどもちょっと田中議員の話の中で出ましたけども、来年3月のダイヤ改正時に新しい車両を導入する、521系というんですか。そしてこれは交流・直流両用走ることができます。今の糸魚川までという話も含めて、大いに歓迎してもいい内容だと思うんですね。糸魚川までといったら、ここからデットセクションを越えて、さらに直江津までわずか38.8キロ、各駅停車でも40分弱。これだけの距離、もう1つ直江津まで伸ばしていただだけませんかという話も含めて、私はできるんじゃないかなと思うんですが、このような動きは当然ご存じだと思いますが、このような富山県からのお話を積極的に受けとめ、会談に臨んでいく、協議をしていく。そういう立場というのは、利用者の利便性を下げないという立場から、共通の話題になっていくんじゃないかと思うんですが、改めてお聞きします、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新聞によるとそのようなことを書かれて、やっぱり糸魚川市民とすれば富山県のほうから糸魚川に乗り入れるということでは、大変利便性がよくなるわけですので、そのことも県のほうにお伝えをし、やはり逆に新潟県のほうから富山県のほうへの利便性を、相互に図っていただきたいということを言ってますので、やはり糸魚川の利便性を考えると、お互いにいいほうを促進していただくというのが、一番いい方向だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

富山県側から、いわばラブコールが送られているわけですから、無視をする、黙殺するじゃなくて、大いに話に乗っていただきたいと思います。

ディーゼル車の安全の問題についてお聞きをいたします。

トンネルの話、先ほどもありました。事故への対応ということでは、対応のマニュアルというべきもの、あるいはそれに類似するというのは当然あるかと思いますが、あるいは検討されているかと思いますが。その状況についてお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、鉄道は現に北陸本線を走っておるわけですが、そういう中では鉄道業者が事業者として、運行するマニュアルというものが当然あるかと思えます。

これは何回も申し述べておりますが、ディーゼル車であろうが、それが電車であろうが、やっぱり安全に対しては同じレベルで、同じ検討が必要でありますし、現に、北陸本線の頸城トンネルも過去にはディーゼル車も運行しておりましたし、それに対しても安全な形での運行であったと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

電車がディーゼルかというのも、そういった事故に対応するようなマニュアルがトンネルの中ではあるのかと聞いたんですが、どうもないようだし、今、特別検討もされていないようですね。

現行のJR、恐らくこういった事故への対応のマニュアルみたいなものがあると思うんですが、JRのほうに問い合わせをした、そのような経緯はございますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

現在、走っているJR西については、当然、会社のほうで安全運行のマニュアルはあるというふうに思ってます。ただ、新しい会社では、まだそこまでいってませんのでマニュアルはつくってないですが、当然そこら辺のことについては、三セクの会社に引き継がれて運行されなければ安全性が保たれないわけですので、そのことは当然引き継がれるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

今の国鉄、あるいはJRのこういうトンネル内での事故への対応ということについては、これも以前に紹介されたかもしれませんが、1972年11月6日の北陸トンネルでの事故、死者30名を出しました。39年前、このときは北陸トンネル13.87キロのちょうど真ん中ぐらいのところで、急行「きたぐに」が燃えたわけで死者が30人。そのときは、脱出するにはあまりにも長いトンネルなので遠かった。消火器以外に設備は全くなく、当時の国鉄は電化のトンネル内では火災は発生し得ないとしていたから、排煙設備や消火設備を一切設置されていない、このようなことが当時のレポートにあるんですが、こんなことはないと思うんですが、今の国鉄から引き継いだJRのこういった安全設備関係の状況というのを、ご存じでしたら紹介してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これについても若干調べましたが、以前は、事故のときはトンネル内でまず停車をするというのが基本でありましたが、そういうのではなく、これ以降、5キロ以上のものを長大トンネルというような形に改めまして、必ずトンネル付近に、例えば電車であると架線事故で、架線から出火すると例えば電車が走れなくなりますので、ディーゼルカーや、それからモーターカーの配置をして、安全に引っ張れるようなこと。それから当然、救援体制、火災発生時のマニュアル見直し、特に火災の場合のトンネル内で停車しないとか、それから電話の設備、それから照明設備の改良、消火器の整備等を行ってきたということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

5月のJR北海道の石勝線でのディーゼル特急の脱線事故をご存じだと思います。私、前回は触れました。その中でベテランの整備士の声が、次のように紹介されております。

問題は、点検で見逃した可能性がある。会社は分割民営後、車両整備も極端な合理化が進められている現状があるんだ。それで最近のJRというのは、予防主義ではなくて発生主義だ、このようなことを言ってるんですね。事故が起きないと対策を打たない。事故を繰り返さないようにするためには、国鉄時代の予防主義に戻るべきだと。

ちょっと紹介されている数字なんですけど、国鉄時代の特急は最高速度110キロ、ディーゼル車は走行25万キロごとに工場解体検査をしなきゃならない。しかし現在、JR化になってからは、最高速度130キロに速度が上がった。そして解体検査は走行50万キロ、倍ですね、国鉄時代の、50万キロに延ばされた。このような話があるんですが、この話があるということで紹介だけしときます。

私、6月の議会の中で、10キロのトンネルでディーゼル車が実際に走っている例は、全国であるかと聞きました。すぐ調査しますというお話でしたが、その調査の結果を報告してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

定期的に、10キロ以上のトンネルをディーゼルが走ってる例はございません。一番長いのが6.何キロで三陸のほうで走っております。また、例えば紹介がありました事故のある石勝線は5キロ以上のトンネルが3カ所、これはディーゼルの単線でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

おっしゃるとおりです。三陸鉄道、今は大震災で7月の時点で今運休しているから、恐らく今もそうじゃないかと思いますが、真崎トンネルというんですか、6.5キロ、それから秋田内陸縦貫鉄道の十二段トンネルというんですか、これが5.7キロ、それぞれディーゼルが運行してるんだそうです。かつワンマンですね、もちろん。それで、あと長大トンネルでのワンマン運転、電車ですけれども、これは北越急行の赤倉トンネル10.5キロがある、このような紹介がありました。

やっぱり日本で初めなんですね、ディーゼル化になって10キロのトンネルを通るということになると日本で初めて、世界でも例があるかどうかわかりませんが、日本で初めて、ですから日本一の安全対策、これが今求められているんじゃないかなと私は思います。

安全の確保には十分留意していきます、検討していきますという立場だと思いますけれども、現時点で、先ほどもちょっとお聞きしましたけれども、この運行会社、安全対策についてはどのような検討を具体的に行っているか。それから石勝線の事故を踏まえて、安全対策を国が示すということをお聞きしておりますが、事故からもう6カ月たちますけれども、国からのこういう安全対策の指針というのが出てきているのか、そこをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

前段に会社のほうの考え方をお示ししますが、北海道のJRの事故があつて以来、安全が第一だということをそれぞれの役員会の中でもお話が出ておりますので、やはりそのことが基本だと思っておりますし、そのような考えのもとで、今後、進められるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

石勝線の事故の状況は、私どももインターネットなりでいろいろ調査する状況でございます、特別その後の安全対策が、具体的にどう出されているかは承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

トンネル内の避難路、安全であるかということについてお聞きします。

11月14日の上越3市の議員の合同研修会で、県の交通政策局長が来て講演をされました。上越3市の議員の前です。その中で、会場からの質問に答える形で、次のような趣旨のことを述べております。

つまり質問は、ディーゼルカーのワンマンカーは安全性に問題があるんじゃないかという質問に対して、その交通政策局長は、頸城トンネルは避難口があり、筒石駅もある。100%とは言えないが、それなりの安全性が確保できるんじゃないかという趣旨のことを述べました。聞きましたよね、この話は覚えていますね。

私、この発言は重要な問題かなと思うんですよね。県議会での公式な答弁ではないにしても、上越3市の議員の前で述べたにしては、ちょっとよろしくないなというのがあるんですね。例えば100%安全とは言えないがということで、何か初めから安全を放棄してるような、そんな言葉にも受け取れるということですね。ちょっとお粗末な、あるいは危険な考え方ということもできるかと思えます。

そこで避難口がありますということを2番目に言ってますけども、これは正しくは斜坑口というんですかね、工事のためにつくるやつ。お聞きします、一番長い頸城トンネル11キロありますが、この斜坑口、交通政策局長は避難口と言いましたけど、どこに何カ所あるか、ご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

頸城トンネルの断面図からいくと、約3キロごとに、こういう斜坑の出入り口があるということを知っております。名前は徳合斜坑というんですか、それから筒石駅、大藤崎、山王の4カ所にあるということです。これが即、じゃあ安全性がどうかということは、またいろんな事故を想定したり、あるいは避難路としていいのかどうかということは、また別の角度からお聞きをしなければならんと思うんですが、市としてもこれらの現地を見に行き、これが本当に安全性につながるのかということで現地を見に行ったらとてありまして、やっぱりこのこともしっかりまた会社のほうに、お伝えをしなければならんというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

ちょっとおかしいですね。政策局長は、長いトンネルで仮に事故があったにしても、こういう避難口があるから、まあ安全というのはそれなりに確保されるんだよという立場から述べた言葉であります。したがって、今、副市長は、まだこれからいろんな形で検討しなきゃいけないし、海のもんとも山のもんともわかりません式の答弁は、ちょっとないかなと思いますね。

じゃあ現在のJRも、ただいま電車の中でも、この長いトンネルの中での事故というのは、それなりの想定はしてると思います。そのときにやっぱり避難口を使うということが、当然前提となっているかと思えます。これはこの避難口、斜坑口というのは、JRは安全だよ、いざというときは、これを使うよという、そういうJR側の認定というんですかね、JRが保障している避難口であると理解してよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

私が言ったのは、やっぱりトンネル内で火災が起きたときに、避難路は当然上の位置にありますね。だから煙突のように煙がそこへ行くわけですから、そこら辺が本当に安全かどうかということの懸念がされるということですので、ここら辺はやっぱり今のJR、あるいは実際やっているJR等がどういうふうな位置づけで、この斜坑を考えているのかということを検証しながらいかなきゃならんと思う。

ただ、やっぱり4カ所あるということは政策局長も、そのことからお話をされたんだろうと思っています。事態が起きたときに、それをどうやって使うかということは、やはり疑問であるから、そこら辺はしっかりと検証しながらいきたいということでお話させてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

ですから同じ話になりますが、県の政策局長が、事故が起きても大丈夫ですよ、こういう避難口がありますから、安全というのはそれなりに、それなりという言葉も問題ですが、確保されてますよという中で紹介したのが、この筒石駅も含めれば4つの避難口、斜坑口であるわけですね。ちょっとおかしいと思います。

それで高低差というのは、例えば筒石駅のデータによると40メートル、階段が300段近く、上り線と下り線で若干違いますが、あるんですね。そこを何か非常時に必死の思いで、恐らく停電もするでしょう。真っ暗な中、必死に登っていく。通常だと5分前後で登れるということですが、そういう非常時に、しかもお年寄り、子どもたちが真っ暗の中を登っていくと、何か非常に怖い感じを受けるんですね。

ぜひともこのトンネル内での安全対策、今ある現在の設備を使う、改良するということも含めて、大いに議論し問題を提起して欲しいと思います。筒石駅は280段、下り線は290段ですね。私も先日登って見たんですが、やっぱりきついですね。5分では、ちょっと無理かもしれません。そんなことを思います。ぜひとも安全最優先ということですから、大いにこの問題提起をしていただきたいと思います。

2番目の権現荘関係のところに移りたいと思います。

リニューアルの計画というのは、コンサルからレポートが出ておりますね。この中の検討の状況というのは以前にもお聞きしたんですが、1年近くたつわけですが、このレポートが出てから。この

リニューアル計画の検討状況というのは、どんな状況にあるんでしょうか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

昨年の3月に専門業者に診断をお願いしまして、その中にリニューアル計画が報告書に含まれています。議員質問の検討状況でありますけれども、市長答弁でも答えさせていただきましたように、リニューアルにつきましては、必要最小限という考え方を持っています。なおかつ、それには民間が持つノウハウを生かした中で、検討していきたいという状況でありますので、具体的な検討については、この後ということで予定しています。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

そうですか。1年近くたつレポートが、ソフト面ではいろんな改善が直ちに行われていて、一定の成果もあるという話は聞いているんですが、例えばあの図面ですね、私も非常に興味深く見させていただいたあのリニューアルの図面、それから投資計画というんですか、お金の計算。リニューアルの費用が約4億3,500万円、営業利益、もちろん試算ですが、年間4,200万円、そして借入金返済を13年から14年で行うことができる、そういうレポートでありました。この数字の裏づけと申しますか、信憑性だとかそういったことも含めて、一切適切検討されていないということですか。そうじゃないですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

4億3,000万円ほどのリニューアル計画は報告をもらっています。今、議員からお話がありましたように、12年か13年の返済計画ということで報告をもらってます。その内容につきましては、一応、専門業者が持っているデータをもとに計算されてますけれども、4億3,000万円という投資というものが、果たして適正かどうかということも含めて、先ほど答弁させていただきましたように民間のノウハウ、その中において、もう少し投資額というものを削減できないかということを検討していますので、そこら辺につきましては、内容につきましては精査をさせていただきますけれども、具体的なものにつきましては、この後ということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

初めからそう言ってもらえばいいんですけど、温泉センターの今後の方向性ということで、当面の改革の中では次のように報告がされております。

権現荘の受け入れ体制が整備され次第、共同浴場の機能を権現荘に一本化する方向で検討したいとありますけど、ここをもう少し具体的に詳しく、わかりやすく説明していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

温泉センターの問題につきましては、権現荘の改革という一環の中で、温泉センターを一本化できないかという話を進めさせてもらいました。ただ、地元のほうから一本化については、やっぱりふだん着で行けない。それから宿泊のお客様とのやりとりが難しいんじゃないか。それから温泉施設の代替えという機能も必要じゃないかというふうなお話がありましたので、その辺のことをリニューアルプランの中で、今言われた部分の改修といいますか、解消の方向を検討した中で、一本化の方向というものについて地元と協議をさせていただきたい、そういう考え方でありまして、物事を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

権現荘の受け入れ体制が整備され次第と今も言いますが、じゃあ整備されるまでは、今の温泉センターは、現在の状態で継続されていくという理解でよろしいですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

先ほどお答えさせてもらいましたように、地元の要望というものが前回の中で出されていますので、その要望に対して一定の方向性が出るまでは、今の形の中で運営を続けさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

わかりました。

それでは現在の見通し、希望的観測でもいいですが、何年先になるんでしょうか。あるいは何年という目標はお持ちでしょうか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

今議会に、権現荘の指定管理者制度が導入できるという条例改正を今お願いしてるところであります。その状況にもよりますけれども、その議案の対応の後、指定管理者募集の要項等、それから条件等をまとめた中で、これも議会の皆様と協議させてもらった中でまとめさせてもらうつもりですけれども、その後、募集ということになりますので、しばらくの間は、今の形の中で対応させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

しばらくの間ですね、目標も含めて聞いたつもりだったんですが。そうしますと現状のままで継続ということは、しばらくの間、お客さんが快適に入浴できる、利用できる、こういうふうにより日常的に設備、施設を保守点検、管理する、良好な状態で置いとくということも含まれるということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

地元の皆様から今のお話といたしますか、方向性を出した中で、やはり利活用の方向性といたしますか、利用の利便性をもっと図るべきだというふうなお話も聞いています。ご利用いただく皆さんにご不便のかからない最低限の整備をする中で、継続をしていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

昨年の2月ですから、もう2年近くになりますかね、温泉センターが非常に老朽化している。もし続けて営業を行う場合は、早急に施設整備を改善、補修しなきゃならない。その費用に7,700万円ぐらいでしたか、ちょっとこれは正確でないかもわかりませんが、お金がかかる。その内訳は、これとこれでこうだという、そういう報告がありましたね。2年近くたっているわけですが、早急に必要な工事という報告があって2年たつわけですけども、現時点でどこか直したとか、きょう、あすにでも、修理が必要な施設設備があるとかという話がありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

7,700万円の修理、工事費が必要であるというお話をさせてもらっております。たまたまき

ようなんですけれども、お湯を送るポンプが異常音を出しているという報告をもらってますし、ボイラーにつきましても少し水漏れといたしますが、にじんでいるというような報告をもらっていますので、その辺については、修理をしていかなければというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

わかりました。

じゃあこの問題は最後ですが、今のお話は当初予定した7,700万円の工事の中身、金額の中に含まれているものかどうかというのが1つ。

それからもう1つは、この温泉センターの今後のあり方について、住民の皆さんへの説明会があると聞きましたけど、その具体的な日時、内容、その周知の方法について、この2点をお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

7,700万円の大きなウエートはボイラーでした。そのボイラーについて先ほどお話ししましたように、少し水漏れの状況が出てるということです。

地元への説明会につきましては、12月23日の休日ですけれども、予定をさせてもらっています。地元の温泉センターと権現荘にはポスターを貼らしてもらってありますし、この広報「おしらせばん」で周知をさせてもらってあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

上南地域全体の振興プランについてです。この振興プランと、私は大いに関連あると思うんですが、7月に総合計画審議会から地域づくりビジョン案という最終答申が出ましたね。ここの上南地区のページを、私、見させてもらいました。次の内容で記載されております。

権現岳ジオサイトに代表される良好な自然環境を利用した農業、雪を利用したスキー場、温泉を利用した宿泊施設など、自然の恵みを生かした産業振興による地域の活性化を目指し、地区の将来像を、自然の恵みを生かした農業と観光の地区、このようにうたわれております。

このビジョンを受けて地域住民自身の地域づくりプラン、これは進んでいるんでしょうか。その前に、地域住民の皆さんが、じゃあつくろう、やめとこう、そういう地区住民の判断というのは、なされたのでしょうか、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

上南地区の地域のプランにつきましては、今、議員からお話がありましたようにスキー場、それから権現荘、それから権現荘だけじゃなくて柵口温泉郷には旅館もありますので、その辺の一体的な活性化に向けて取り組めないかということで、お話をさせてもらっています。

今の段階といたしましてはプランといいますか、制度の説明をさせていただいて、上南地区の区長会連合会の皆さんに、こんな形で行政として、上南地区の活性化に向けてプランニングをしたいというお話をさせてもらって、制度の説明をさせてもらっているというのが、今の現状であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

この振興プランは、上南地域と共同で検討したい、そういう報告でしたけども、私はもちろん上南地域の皆さんと共同で検討することは大事ですが、同時に、能生地域全体、オール能生の力で、この振興プランというのを、いろんな角度から検討していくことが大事じゃないかなと思うんですが、地元の協議だけで、もちろんそれも同時に並行しながら、オール能生の力でこの振興プランをつくり上げていくという、こういう考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

能生地域全体の活性化、振興プランというのを、当然、描かなくちゃいけないんだろうと思いますし、振興ビジョンというものの中で、位置づけしなくちゃいけないんだろう思うわけですが、しかし、全部の能生のエリアで住民皆さんが一体となるというのは、なかなか至難の技じゃないでしょうか。

そういう中において、今、上南エリアを絞って、みんなで住民が一体となって地域をどうするかという、地域全体の皆さんの気持ち、そういったものをまとめていくのがプランだろうと思っております。公民館単位、また、いろんなくくり方があるわけですが、今、上南という中に置きましては、グリーンメッセ、また、シャルマン火打スキー場、権現荘、そして今ほど話をいたしました柵口温泉郷、そしていろんな自然資源があるわけでありまして。そういったものをどのように活用していくのか、どのように地域をもっていくのかというのを、やはり住民全体で話して、まとめていくということが大事だろうと思っております。

それが地域振興プランだろうと思うわけでありまして、そういう中においても行政もやはり自然資源を持っておるわけですが、施設を持っておるわけでありまして。例えば道路もそうでございますし、また、いろんな中において、当然、今我々が進めておるジオサイトもあるわけでありまして。そういったものをとらえて、みんなでその一帯の振興を考えていただきたい。それを今、区

長さん方だけではなくて、やはり住民お一人お一人が、どういう気持ちを持っておられるかというのも大切にしていきたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

私はこの振興プラン、これからの権現荘エリアをめぐる大きな動きに先行してやらなきゃならないと思っております。したがって、この振興プラン、落ちついて急いでつくらなきゃいけないと思います。何かこの日だ、いつまでだというような目標があればいいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

確かに何年かかってもいいということではないわけではありますが、しかし、あまり期日を決めて、それに向かってということではないだろうと思っております。やはり大勢の人の意見を聞くことが大事、そういったことを大枠で集まったり、また個別で集まったり、そういういろんなバージョンで皆さんの意見を上げていってまとめるのが筋だろうと思っております。

そういう中において、やはり手間暇をかけて、そういった皆さんの意見をまとめていきたいわけでございますし、今、県の協力をいただける方向でもあります。そういう中で、とらえていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

この振興プランを策定していく上で、ジオパークのジオサイト権現岳、これをどう結びつけていくか、どう関連づけていくかというよりも中心ですね。中心的な問題になるかと思えます。そこで振興プランの中にジオサイト権現岳、どう位置づけるかという現時点での基本的な考え、お聞かせいただきたいと思えます。

11月9日の建産常任委員会での糸魚川ジオパーク戦略プラン、休憩中の報告でありましたが、この中の具体的策では、柵口温泉と連携して、食やジオポイントなど関連づけて誘客を図るとありますが、能生事務所でアドバイスをしてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

行政で今、計画の中に、戦略プランの中に入れとるのは、当然、権現岳ジオサイトでは、それを活用していきたいわけではありますが、しかし、行政だけでできるものではございません。今ほど前段でもお答えしたとおり、地元の人たちがどのように思っているのか、そして地元の人たちのやっ

ぱり協力なくしてはできないわけでございますので、その辺を含めてご検討いただきたいと思いますとおっております。

いろいろな説明会においては、当然、行政が出ていきます。地域担当者もおるわけでございますし、能生事務所が全面にその中に入って行くわけでございますので、ご理解いただきたいと思いますとおっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池田議員。

16番（池田達夫君）

最後です。在来線の問題についても、この権現荘、温泉センターの問題についても、今、大きな注目を浴びてるところです。全力を挙げて取り組んでいただきたいと思います。

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、池田議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩をいたします。

再開を3時50分といたします。

午後3時34分 休憩

午後3時50分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、倉又 稔議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。〔18番 倉又 稔君登壇〕

18番（倉又 稔君）

清生クラブの倉又でございます。

1、世界ジオパーク加盟後の検証についてを質問いたします。

糸魚川ジオパークが、ユネスコの支援する世界ジオパークネットワークに加盟、認定されてから2年が経過しました。

この間、官民ともに協力し合いながら、また個々において、少しでも糸魚川の活力となるように、手さぐりながら取り組んできた努力は評価に値します。

そこで、今まで行ってきたそれぞれの取り組みによって、糸魚川がどのように変化し、それにより、どのような課題が見えてきたかを検証する必要があるとの観点から、次の点を伺います。

(1) 世界ジオパークネットワークに加盟したことにより、良かった点は何か。逆に悪かった点

はあるのか。

(2) 今までの取り組みにより見えてきた課題はあると思うが、どんな課題が見つかったか。

(3) 今後の方向性としては、「ジオパーク戦略プラン」により推進するとしても、見つかった課題に対し、どのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

倉又議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、よかった点は、ジオパークの世界認定により糸魚川の情報発信を世界にできたことや、ジオパーク検定とジオパークマスター等により市民の一体感が増す中、交流人口の拡大につながったものと考えております。

また、悪かった点は、資源保護の観点からミュージアムでの鉱物等の売り上げが減少したことや、受け入れ体制の不備が考えられます。

2点目、3点目につきましては、全国的なジオパークの認知度が低いということと、当市におけるガイド体制の課題が挙げられ、ガイドのスキルアップや組織の自立など、引き続き関係する皆様と連携をしながら進めていくことが必要と考えております。

また、認知度の向上につきましては、糸魚川をはじめ日本各地のジオパークからの情報発信と、日本ジオパークネットワークでも、さらなる普及活動に取り組んでいく必要があると考えております。今後、ジオパーク戦略プランをもとに事業の実施段階に入りますが、関連する団体と協議を深め、推進してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、部・課長からの答弁もありますので、よろしくお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今ほど市長のほうから答弁がありましたとおり、私も全国に数多くいない友人、知人ですけれども、また、旅行先でジオパークの話をすると、ほとんどの人が知らないと言います。ということは、ジオパークに関しての認知度というものが、まだまだ低いと思われれます。

そこでこの認知度を引き上げるには、今の市長の答弁にもありましたけれども、どのような取り組みをしてきたか、また、これからどのような取り組みをしなくちゃならないか。先ほどの答弁の中に、この答弁が入ってございましたけど、再度お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

大きくは2つあると思うんです。1つは、JGN、日本ジオパークネットワークの会員とあわせて、やはり世界及び全国に対して組織力をもって、もうちょっとPRなり啓発活動をしっかりしていかなきゃいけない部分と、もう1つは、私たち糸魚川市の市民を含めまして、行政もしっかりと関連する団体と腕を組みながら、やはり世界ジオパークのまち糸魚川というイメージと、それからやはり来ていただけるような名所、あるいはサイトを自信を持って紹介できるような背景を、しっかりつくっていかねばいけないんじゃないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

ただいまの滝川課長が答弁したとおり、やはり日本ジオパークネットワークと連携していくと。それには日本ジオパークネットワークの会員団体をやっぱりふやしていかなくちゃならないと。そのふやしていくための努力というのは今まで随分、市長をはじめやってきたと思いますけど、その日本ジオパークネットワークに加盟をする団体を多く引き入れて、そしてその中から会員同士で連携をしながら日本全体に広げていく、これは今の答弁のとおりだと思うんです。

では、先ほど市長をはじめ日本ジオパークネットワークに加盟する努力はしてきたと私は思っておりますけど、どのような方法でそれをやってきたかということをお聞かせ願いたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

もちろん情報発信は基本的にありますけど、各種大会等全国それぞれ各地域が責任を持って実施してきました。ジオパーク世界認定を受けてから3年目に足かけ入ります。大会がたくさん全国各地で行われておりますけど、事前相談というのを前々日にいつも持っております。それはジオパークに少し関係して地域振興を図りたいという地域に対してやはり啓発を含めて、逆にどのような推進状況でいけるんだという相談窓口であります。広く呼びかけながら、受けるほうも親切に相談に乗って、やはりジオパークの目的であるこの組織の推進とあわせて、地域振興というしっかりしたねらいを持って相談しております。

3年前は13の地域でスタートしました。現在は準会員を含めると30になっております。世界認定も6つ評価をいただいております。こういう広がりがあるが、やはりそういう活動によって進展してきたものというふうに思っております。市長以下やっぱりそこに関与しながら、しっかりともう少しばらくの間、定着、拡大を図っていくべきかなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足して説明をさせていただきますが、やはり日本ジオパークネットワークといたしましても会

員を拡大していくことが大事でありまして、今ほど課長が答弁した中においては各ジオパークの地域が広がっていることも事実であるわけですが、しかし、もっと広げなくちゃいけないのは、やはり個人の皆様方の会員というのにも必要になってくるんだろうということで、今、法人化をさせていただきました。NPO法人を取らせていただいて、そして今、これから賛助会員を集めさせていただきます、年間ある程度会費をいただく中でその会員を広げて、その情報発信なり、その普及啓発に努めていきたいということで進めさせていただきます、早々に募集に入りたいと思っております、そのような今進め方もさせていただきます、さらにその輪を広げていくように、今、国の各省庁にもいろいろと委員の中に加わっていただいたりしておるわけですが、国会議員の先生方からもやはり指導いただきたいということで、そちらの方向にも働きかけをいたしまして、これも年度内には説明会を開きたいという方向で、今考えさせていただきます。そういったことがいろんな面で、これから広がりをもっていくことにつながるだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今、市長の答弁の中で、国会議員の連携も考えていると。私らも昨年国会へ行ってきたときに、そのような話を聞いて、国会議員の議員連盟ができればいいな。我々も本当はここで、ただ行政に対して質問してるだけではなくて、我々も市町村間の議員連盟もつくればいいんじゃないかなとは思っておりますけども、やはり一体となって、これを推し進めていかななくてはならないと思っております。

日本国内に世界ジオパークネットワークに加盟、私は今、課長のほうから6団体と聞いたんですけど、私はちょっと認識不足だったんで、私の頭の中ではまだ5団体しかないんですけども、室戸が加入されて5つだと思ってるんですけど、もう1団体というのはどこでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

先んじて少し話してしましまして申しわけありませんでした。現在、世界認定を受けたのは5団体です。そのうち、もう1つ隠岐というのが今申請準備ということで、世界に申請するという形で動いておりますので、それを網羅して少しお話をさせていただきました。申しわけありませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今ほどの課長答弁から聞いたように、今、世界ジオパークネットワークに、当系魚川を含めて5つの加盟団体があると。その中で系魚川を除くあとの4つのジオパークは、やはり昔から国内に

観光地として名前が知れているところなんです。黙っていても観光客が、ある程度来てくれるところなんです。このジオパークネットワークに加盟して、今来ている観光客を確かにふやそうとは思っているけども、少なくとも現状維持でもいいんじゃないかなと考えているところが、多分多いと思うんです。

ところが糸魚川の場合は、そういうわけにいかないんです。やっぱり交流人口をふやしていかななくてはならない。糸魚川が成功するか、しないかによって、この世界ジオパークネットワークに加盟したというよりも、ジオパークの真価が糸魚川に問われていると思うんですけども、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく議員仰せのとおりでございます。他のジオパークにつきましてはいろんな観点から非常に、特に観光に強い交流人口拡大の兆しがあるところでございます。糸魚川市については以前からも観光には取り組んでおりましたが、そんなに全国的に有名な観光地ではありませんでした。そんなことを考えますと、我々はやはりこのジオパークで今ようやく世間の前に出たわけでございます。我々の活動、即、ジオパークのパロメーターになるんじゃないかなという見方もされております。でありますから、我々が頑張らなくては会員が広がらないというのも、またそういう判断もできるんじゃないかなと思われるわけでございます。暗に、また議員と同じような言い方をされる学者の先生方も結構おられるわけでございますので、我々はやっぱり一生懸命頑張らないかんのかなと。そして頑張ることによって、日本ジオパークの中での啓蒙、啓発にもつながっていくんじゃないかなと思つとるわけでございます。まさしく我々が目指す方向は、1つしかないと思つておるわけでございます。それにしっかり向けていかななくてはいけないと、今考えておる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今ほど市長の答弁のように、我々の感覚でいえば、糸魚川は相当全国に知られているという感覚でございますけども、糸魚川はほとんど全国的には知られてないです。

例えば我々が全国に知られている名所、観光地でも、これはどこにあるんだと言われたときに、すぐに答えられるかどうか。例えば鳥取の砂丘と言われれば、鳥取にあるというのはわかるんですよ。じゃあ金比羅山はどこにあるか、四国にあるというのはわかるけども、香川県にあるというのがすぐに出てくるかどうか。糸魚川はどこにあるかと言われたら、これはもう富山県かな、長野県かな、新潟県かな、こう言われるだけでも、ああ、あの辺にあるんだなということを認識してもらってるだけでもありがたいですよ。その近辺で、どこにあるかもまるきり検討がつかないところが幾らでもあると思います。そういう感覚でやっぱり糸魚川を、全国の人たちが知らないということ

を見ていかないといけないと思うんです。それじゃ糸魚川の知名度をどうやって上げるかということが、これからやっぱり必要だと思うんですよ。我々も努力しなくちゃならないですけども、行政のほうで糸魚川の知名度をどうやって上げるんだというような、これからの取り組みというのは何かありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

おっしゃるとおり当市を広く知っていただくということは、非常に大事だと思います。そのような意味では、ことしからやはり県内に向けて当市のイメージづくり、それから糸魚川はどこにあるんだ、何があるんだという発信をしてきたつもりです。特にラジオ、それから映像媒体ということになると思いますけど、県内でツアーをしても村上方面からいらっしやると、糸魚川へ初めて来ましたという、新潟県内でも非常に多いです。それから今回は、はとバスを実施しましたが、ほとんど糸魚川は初めての方です。せいぜい知っておられる方では、自分の親戚がその近くにいますという方がほとんどでした。ただ食材とか、ここで提供するものについては、非常に感銘して帰ります。地元のふれあい等も非常に感銘して帰りました。

そういうような中で、きょうも金沢と富山にマスコットキャラクターとともに、冬期の宣伝活動に行っておりますけど、特に映像を含めたテレビ会社からの発信は、有効な手段だなというふうに考えております。そのほかに無料配布の情報、そういうものも含めて、今、果敢に少し挑戦させてもらっております。これから今まで以上の情報発信をもとに、しっかり定着したいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

情報発信を一生懸命やると、これはやっぱり結構なことだと思いますけども、ジオパークを全国的に宣伝するには、市長を中心に全職員が、庁舎全体がやっぱり一丸となって推進する必要があるんじゃないかと思っておりますけども、私がこの庁内を見る限りでは、市長と一部職員だけが一生懸命に取り組んでいて、庁舎全体が盛り上がり全体でジオパークを売り出そう、糸魚川を売り出そうというような感じを私は受けないんですよ。それはどうしてなのでしょうかね。やっぱり私の言ったように、全職員が一体となっていないんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

私としては、全職員に周知されているものと思っております。ただ、やはり職種を突っ込んでいきますと、自分の受け持つエリアがどうしても主体にならざるを得ない部分もあります。そのような意味では、私は個人的には1つ大きな流れの中で、この3年半後の新幹線の開通が1つのエポッ

くだとすれば、もう1つの一大エポックは、やはり3年前に受けましたこの世界ジオパークの認定が、当市にとっての一大契機ではないかなと。こういう機会というのは、チャンスはそう来ません。この時期だからこそ、やっぱりチャレンジしていい場面もあると思います。ぜひそういう意識のもとで職員全員に周知しながら、やっぱり頑張っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

私の言ってるのは、そういうことじゃないんですよ。職員の一人一人に何ができるかということなんですよ。

私は視察に行ったり市外へ出るときに、プライベートの旅行に行くとき、必ずこのパンフレットをもらって持ってきますよ。行き先で宣伝してきます。今、糸魚川の市職員574名、臨時職員も入れると700名からなりますよ。その一人一人が同じようにパンフレットを持って研修に行ったり、プライベートの旅行に行ったりしたときに、宣伝してきておりますかということ聞いておるんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

職員を管理と言うとちょっと語弊がありますが、職員を指導する立場の部署としてお答えを申し上げたいと思います。

今現在、滝川課長がお答えしたとおりであります。確かに議員がおっしゃるように職員一人一人がパンフレットを持って、自分が糸魚川市から来た職員、さらには糸魚川市はジオパークなんだということを宣伝する職員は、数少ないように感じております。

我々としても研修の一環の中では、市はジオパークを目指してやっている、ないしはジオパークを交流人口の核にするんだということを、市長の指示に基づいて研修をしておりますが、なかなか職員の中にすべてが浸透している状況ではありません。ただ、個々には、それぞれ努力している職員もいることも事実でございます。いろんなつてを伝いながら、ジオパークのまち糸魚川市というのを宣伝しながらやっている職員もいるということも事実であります。全職員にそこまで行き渡っていないというのが現状だと思いますし、今後もう少しそこをどう改めていくか、ないしは職員がそこまで意識を持てるように、また我々としては意識改革に努めたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今ほど私の言ったのは、ほんの1例のことなんです。そういうことで個々人の職員も市長と一体となって、推進してってもらいたいということをも1つの例に挙げて問うてみただけです。

日本のジオパーク、ジオパークそのものの認知度は低いというのは、今のやりとりでもわかっておりますけども、じゃあ糸魚川市民のジオパークの認知度というのは、どの程度進んでいるか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 小林 強君登壇〕

教育委員会文化振興課長（小林 強君）

事例ということで、少しご紹介を申し上げたいと思います。

博物館が主催をいたしまして、学校関係と連携をとっている講演会とかご案内の回数が、ジオパーク認定を受けた20年度では37回、1,670人ほどの子どもさんたちに、ご説明をさせていただいております。それが22年度の実績ですと、58回で約4,000人という形でふえております。

それから館主催ではありませんが、議員さんのほうから説明に来てほしいとか、また、県外の方から学芸員に説明をしてほしいとか、そういうご要望につきましても20年度につきましても88回だったものが、22年度で131回。それから人数的には、22年度、88回の約4,000人の方が、今7,000人というふうにはふえておまして、そういう意味では世界ジオパーク認定を含めまして、市民の方々にご認識をいただくための努力をさせていただいているつもりでございます。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

世界ジオパークに認定されてから、やはりジオパークという名称は、糸魚川市民のほとんどが私は知っとると思います。それだけやっぱり浸透しとると思います。じゃあジオパークって何だって聞かれたときに、しっかり答えなくてもいいですけども、漠然とでもいいですけども、答えられる人間がどれだけいるか。また、観光客が糸魚川へ来たときにジオパークのことを尋ねられたら、市民の何人が答えて、それに対して観光客の要望にこたえられるだけのものを答えられるかということは、これから重要だと思うんです。それをするために、どのようなことをやろうかという体制をつくり上げていこうかということを考えているかどうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

この2年間、出前講座、それからいろんな学習、あわせまして昨年からはジオパークマスターということで、各企業とか団体の方にもご協力いただいております。年々参加者はふえておりますけど、議員おっしゃるとおり、それが市民すべてに対してかというのは、まだまだ拡充しなきゃいけない点があると思います。

今後も市民一体となれるような活動をしっかり、ジオパーク協議会等と連携をとりながら進めて

まいりたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

講座も結構でございますし、じゃあ講座を聞いただけで、すぐ答えることができるかということなんです。

私は建設産業常任委員会で1回言ったことがありますけども、子どもからお年寄りまで聞かれたら何でもいいから、例えばフォッサマグナミュージアムへ行ってくださいと、これだけ答えられればいいんですよ。そういうふうに皆さんが、市民全員が答えられるようにお願いしなくちゃならないと思います。そしてフォッサマグナミュージアムへ行ったら、ジオパークの内容を教えて、それからこういうところへ行きたいという話を聞いたら、それではこのサイトへ行ったほうがいいですよと指導してやれば、わざわざ難しい講義を聞いて頭の中に入れなくても、まず一言、ジオパークのことで観光に来たんだと言われたら、フォッサマグナミュージアムへ行ってください、行き方はこうですよ、それだけ教えりゃいいんじゃないですか。観光協会へ行ってくださいでもいいですけども、やはり統一した教え方をするには、やっぱり1カ所に定めたほうがいいと思いますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

議員おっしゃるとおり、それも1案だと思います。正直、私は個人的には3つの案件をいつも話をしております。特に初めて来るおじいさん、おばあさんに対してが多いんですけども、フォッサマグナミュージアムに行っていただけでしたかということと。もう1つは、抱きつかれないようなヒスイがごろごろある小滝川へ行ってきましたかと。もう1つは、ヒスイが拾えるかもしれない海岸に行っていましたかと、この3つを要約してお話してます。どちらにしても、やはり郷土愛に結びつく部分が大きくあるんじゃないかなというふうに思います。やっぱり糸魚川市を愛してこそ、情報発信がしっかりできると思います。

議員おっしゃるのは学習だとか研修だとか、確かに機会としては私どもセットしておりますけど、もう少しやわらかい部分での市民への投げかけ、それがやはり一人一人の情報発信として誘客、あるいは来訪者につながっていけるような活動の仕方も一考あると思いますので、今後また、さらに検討させていただきたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今ほど課長のほうからヒスイの話が出ましたので、ヒスイについてちょっとお聞きいたしたいと思いますけども、糸魚川の地名を宣伝するための核として、ヒスイの産地として売り込んでいます

けども、これは非常に悪いことではないと思います。だけど糸魚川の地名を知っている人は、ヒスイよりも真柏のほうをよく知っております。国内で宝石としてのヒスイの認知度は高いと思いますか。私は決して高いと思っていません。それをどのように売り込むか。高いと思っているんなら、そのように答えていただければいいですけど、まず、認知度というものをお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

宝石としての位置づけをどうとらえるかというのは、受け身の側がやっぱり判断する部分だと思いますけど、私はそれなりに価値があるというふうに思っております。ただ、全国何カ所という形でヒスイの産地はありますけど、玉、いわゆる宝石として加工できるものは当地にしかないという認識であります。

そういう意味で、やはり午前中から話しているとおり、糸魚川を代表するものは何ですかといえ、ヒスイと断層というふうに私どもは考えておりますので、そういう一応の範囲の中での宣伝啓発であります。そのほかたくさんいろんなものがありますので、1つの題材として紹介するには格好の資産だと思いますので、それもあわせて私どもは、徹底していかなきゃいけないというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

私もヒスイは、宝石としての価値はあると思います。ヒスイとしての認知度があるかどうかと聞いたんです。

それともう1つ、ヒスイをやっぱり売り込んでいかなくちゃならないです。ただ、縄文時代から5000年の歴史を持っているヒスイ文化ですけども、この5000年といえども日本の歴史の中から、大体仏教が伝来して定着した7世紀から8世紀の初めには、このヒスイ文化というものは滅亡しているんです。それでようやくまた日の目を見たのは戦後なんですよ、日本でも、ここでも。

あの古事記に出てくる奴奈川、その奴奈川そのものが、日本には存在しないと言われていたんです。この小滝川の上流にヒスイが発見されるまで。そういうものをこれから売り込んでいくためには、相当の努力が必要だと思うんです。これはやっぱり売り込むためには、私は非常に必要なものだと思いますよ。やっぱりこれを売り込んでいかなくちゃならない。

例えば、まがたまです。三種の神器の1つのまがたまは、糸魚川産ではないかと言われていたり、例えば、そうでなくても出雲大社のまがたま、三内丸山のヒスイは、間違いなく糸魚川産なんです。この糸魚川産であるということ、やっぱり売り出していかなくちゃならないですけども、考古学者だとか歴史学者だとか、その道に通じている人は、やはりここは大切なところだと思っておりますし、それなりに価値あるところだと思っておりますけども、一般の人たちにどうやってアピールするんですよ。それをこれからみんな知恵を出して考えて、売り出していかなくちゃならないと思いま

すが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく我々はヒスイというのは、このジオパークの中でも使える資源だろうと思っております。そして、これは今、我々は縄文サミットに加盟しておるわけでございまして、国の指定の縄文遺跡のグループであるわけでございますが、そこに毎回出ていても、やはり糸魚川はヒスイだねというのは非常にもう有名になっております。

しかし今、公共事業の中でいろいろと埋物調査をする中でヒスイが出てきとる。それはすべて糸魚川だという、今もう位置づけがはっきりしとるわけでございます、北海道から九州まで。そういうのをやはりこれからは、今、議員ご指摘のように、我々はそれをもっともっとやっぱり活用していくべきだろうと思っております、そういった点と、もう1つ、ヒスイはやはり宝石マニアといましようか、宝石を熟知した人たちの中においては、やはり非常にもう糸魚川ヒスイというだけで、質のいいこともさることながら、逆に鉱脈がないわけでございますので、河川、海岸から拾ってきとるものだけを使っておるわけでございますから、希少価値というのもそれに加わって、非常に脚光的にも、今、鉱物博なんかにおいても浴びてるわけでございますので、そういったところをやはりヒスイというものの切り口で広めていったり、また、奴奈川姫の伝説もあわせて文化としてとらえて、やはり我々はこれを広めていくべきだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

今、市長からいい答弁をいただきましたので、ヒスイをやはり核として売り出していかなくちゃならないと私も認識しておりますので、ぜひそのようにしていただきたいと思えます。

それから、ここへ来てからいろんなパンフレットや何か、来る前もそうですけども、ありますけども、数多くあるんですけども、私の見るところ一貫性がないんですね。きのうの渡辺重雄議員の質問に対して滝川課長は、今、ナビマップが一番出ております。私も見てみますと、やっぱりあれが一番いいと感じております。ただ、あれには各24サイトの説明がないんで、それはまた別として、その説明用のパンフレットをつくる。ただ、あのナビマップも本当に現地を見て、行って、つくっているかということ、非常に疑問ですよね。やっぱりそういうものをつくるのに現地へ行って足を運んで、起点を定めてここから何キロ、例えば糸魚川インターから何キロあると、所要時間はどれぐらいかかりますよ、そこへ行ったらこういう案内板がありますよと、そこまで書ければやっぱり親切だと思います。

それをこの間、課長にもお渡ししましたけども、そういうものを個人の人がこうやってつくったんです、非常に見やすいですね。これを初めての人に見せても、やっぱりこれは見やすいと言いますし、また、糸魚川にいる人にも見てもらったら、これがあれば案内しやすいと言います。そうい

うマップをやっぱりつくるべきだと思いますけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

資料については、きのう職員と一緒に見ました。確かに、例えば冬期間はいけません、ここは小型車しか入れません、カーブが多いので気をつけてください。それから例えば糸魚川インターチェンジから何分ですという表記があります。私どもは非常に現在のマップは、ごくあっさりした形になっているんじゃないかと思います。初めて来る方が、今言ったような形で表示がしてあれば、より親切でわかりやすいというふうに思いますので、新しく再編するときは十分気をつけながら、前向きに修正等、検討させていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

よろしくをお願いします。

話は変わりますが、今、ジオパークを売り出すためにジオパーク大使をお願いしてと思っています。今、何人お願いしておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

5名の方に活躍していただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

そのジオパークの大使の人たちは、目に見えないところで一生懸命活動してくれとると思うんですよ。実際に活動しとるんです。その活動してくれている内容を、お願いしている行政はちゃんと把握しているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

主に市へ来訪するときとか、それから竹山さん等はイベントの際に、非常に糸魚川を紹介したいというお話をよくお聞きします。そういう中ではこちらと、正直なところ予算的な背景もありますので、そこら辺を吟味しながら可能な範囲で協働といいますか、当市の宣伝ないしはPRに、連携を深めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

やはり大使にお願いしている限りは、5人一堂に会してでなくても1年に1度ぐらいは、何かの形で情報交換するべきじゃないですか。

今、課長のほうから高橋竹山さんのお話が出たので、その竹山さんの話をちょっとさせてもらいますけども、その竹山さんが芸能活動の幅広い世界の中で、小室等さんとか佐々木幹郎さんのお力と一緒にあって、ジオパーク音頭というのが生まれましたけども、これをどのように活用していますか、現在。私はまちを歩いてもどこへ行っても、ジオパーク音頭が聞こえてこないんですよ、せっかくつくってくれたのに、どのように活用してるか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

やはり発表当時を主体に、よく大会とか催事の折には活用させていただきました。ただ、議員おっしゃるとおり、現在はというと、少し活用の仕方が足りないのかなというふうには考えておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

ジオパーク大使であり、しかも民間の人たちがジオパークの宣伝のために何かをしようとアクションを起こしたときに、やはり行政でもできる支援をするのが当たり前じゃないかと思うんですけどね。例えば、私、上越へ行くと、行ったときにレルヒの歌を聞かないときはないですよ。毎日、私の職場ではラジオのエフエム新潟をかけているんですよ。毎日流れてきますよ、レルヒちゃんというのを毎日聞いてます。私、糸魚川におりながら、ジオパーク音頭というのは1回も聞こえてこないです。例えば観光協会とタイアップしたり、それから働きかけをして、例えばヒスイ王国館の中で流すとか、駅前で流すとか、せっかくつくってもらったものを活用しない手はないじゃないですか、そういうような考え。

それから教育委員会にもお聞きしますけども、幼稚園、保育所、小学校などで歌を歌ってもらったり、何かのお遊戯会のときに踊ってもらったりと、そういうことも考えてもいいんじゃないかと思うんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に我々といたしましては、非常にこの歌をつくっていただき感謝いたしておるわけでありませんが、押しなべて市民の皆様がお聞きになると、いいなというのは異口同音に言うんですが、非常にレベルが高くて、一般の人たちがなかなかなじんでいけないのが、広まらない1つの原因かな。その辺がちょっと我々も、なかなか1回、2回では覚えられない部分でしょうし、また、その辺があったのではないかなと思ってるわけでありまして。

市の庁舎の中でも一時かけたことがあるわけでありまして、そういったことで、これからはやはりジオパークと同じで、市民に受け入れられて初めて普及していくんだと思うし、その辺のやっぱりPRを、これからまた民謡の皆様方とかカラオケの皆様方、そしてまた踊りの皆様方にもその辺をお聞きしながら進めていきたいし、また、高橋竹山さんにもお願いして、糸魚川の中でもやっぱり少し活動していただかないと、ご本人がおられんもんですから、ご本人がやっていただくことが、一番ありがたいんだと思うわけでありまして。そんなところもあってか、なかなか広まらないところがあったのかなと私も思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

園、小中学校の様子についてお話いたします。

園、小中学校につきましては、高橋竹山様からそれぞれ1枚ずつCDをいただき、各学校に配らせていただいております。一部しかちょっと調査してございませんが、ある小学校では、金管部がこの曲を演奏し、運動会、おまんた祭りとか文化祭で演奏して親しんでもらっていると。ある学校は、給食の時間に校内に流したりして親しんでもらっているというようなことであります。

ただ、まだ振り付けができていない状態でありまして、運動会だとか、そういうところでやっているという状況は、今のところありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

私は高橋竹山さんに直接お会いして、ちょっと口幅ったいようですけど、あの小節の効いた歌は、やはりプロとしての歌としては最高ですけども、皆さんが歌うには先ほど出たレベルが高いので、小節の効かない歌を、発表会のときにやった、ああいう歌を聞かせてもらったほうがいいんじゃないかということを書いてきたこともあります。

そのときに、今、市長が言ったみたいに、皆さんがあの歌をもし歌いにくかったら、こういうふうな形で使わせてもらえないかというような相談にやっぱり行くべきじゃないでしょうか。アクションを起こしてないんですよ。お願いして、本来の形とは違うけども、子どもたちが歌いやすいんならこういう形にちょっと変えさせてもらってでもいいですかとか、踊りの振り付けもしとるんだけども、あると言っておりますよ、でも、それがちょっと難しかったらこの辺を少し操作して、こんな形にさせてもらってやらせてもらってもいいかとか、それぐらいの相談に行くのは当たり前の話じゃないですか。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

市長のほうから、素人には少し難しいという話がありました。私もそういう部分では少し感じております。発表会の当日は小室等さんが普通のバージョンで、小節をなくして歌った場面がありました。私にとっては正直、そちらが覚えやすいなと思ったのも事実です。竹山さんと機会をつくって、そういう話ができるように、ただ、実現するかどうかはともかく、そういう話はしてみたいなというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

もしそれを普及させるために、こういうような形にさせてもらいたいということなので、それはやっぱりお願いに行きたくてやるべきですよ。

先ほどジオパークネットワークの会員を、今度は個人会員まで広げるという市長の話がありましたけど、それについてアウトドア専門のモンベル社とネットワークを結ぶ契約をしてるとお聞きしましたけども、それは間違いないですか、糸魚川市がです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

モンベル社のフレンド会員として、ジオパーク協議会のほうを通じて手続きをさせてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

協議会を通じて契約しとるわけでしょう。ある程度そのメーカーのやっぱり財政負担もしてるわけでしょう。そしたら、なぜそれを糸魚川市民だとか皆さんに知らせないんですか。私自身、知らなかったんですよ。やっぱり宣伝してもらわなくちゃ、ああ、そういうことかということで、やはりそこへ入り込める部分が出てくると思うんです。せっかくのそういう契約をしながら、市民、住民に知らせてないというのは、どういうことなんですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

正直、モンベルとはずっと協議をさせてきていただきました。私自身、ちょっと認識不足だった

んですけど、アウトドアの製品を扱う業者としては、これほど大きな、メジャーなネットワークを持っているとは、なかなか把握できなかつたのも事実です。ただ昨今、雑誌を見ておりますと、ほとんどのアウトドア、山登りを中心にですけど登山製品が非常に多く出回っております。

それからモンベルのネットワークの中ではフレンド会員というのがありまして、そことリンクしますと、実は先般の関西方面のフェアがあったときに、シャルマンのスキー場のほうも一緒に加わって、その中で啓発活動をさせてもらっております。非常に多くの方の来場者がありますので、議員おっしゃるとおり市民向けの周知は、少し足りなかつたかなというふうには自覚しておりますし、今後、広くこのような形で呼びかけて、全国に展開してますよという話は、しっかりしていかなきゃいけないかなというふうには思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

ぜひお願いしますよ。自然のアウトドアの好きな青年を、全国から糸魚川のほうへ呼んできていただきたいと思います。

それから次、市の花・ササユリを全国的に発信すべきだと思いますけども、この売り込みはどのように考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

宇宙に行ってきた花として、非常に貴重性はあると思います。特に一般にあるササユリとあわせて、谷村美術館をことしから管理をちょっとやっておりますので、その中の1点として、商品の一部に加えさせていただいて、販売をちょっと試行してみたことはあります。ただ、まだまだ周知されてないと思うんですけども、爆発的な売れ行きには至っておりませんでした。培養したものが、まだまだ市場に出回るといふのには、少し時間がかかるのかなと思いますけど、既設のものとおあわせまして、少し展開が図れるかどうか、また検討してまいりたいというふうには思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

私ね、宇宙のササユリの前に、糸魚川のササユリをどうやって売り込むかということなんですよ。例えば休耕している棚田を利用してササユリをつくる。今、課長が言いましたね、一生懸命に培養してる宇宙のササユリの球根を多くふやしてもらって、それをまたその一角でもいいし、別のところでもいいから、宇宙のササユリ園というのをつくるんですよ。この宇宙のササユリ園というのは、もう世界にここしかないんですよ。その前段階として、市の花・ササユリ園をどのようにつくって、どのように売り出すか。そのササユリ園をある程度、皆さんに認知してもらったところで、培養してふやしてもらったその球根を使って、宇宙のササユリ園をつくるよう企業にお願いする。そ

ういう方向づけで、これから考えていくというようなことは考えられないですか。

議長（古畑浩一君）

倉又議員に申し上げますが、通告の世界ジオパークの問題と今のササユリの問題を、もう少し関連づけるような質問でお願いしたいと思います。

18番（倉又 稔君）

ちょっと休憩です。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩します。

午後4時46分 休憩

午後4時46分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

日ごろからジオパークは多様性が多くあるというふうに言われております。その動植物の一環として、ササユリは注目されている部分だと思うんですけど、関係者にいろいろお聞きしますと、あまりにも広く周知し出すと盗掘という部分があって野山が荒れるというもお聞きしています。

ただ、今の話は培養を含めて栽培をしたらどうなのかという話で伺いましたので、そういう状況の中で情報発信を含めて、事業的に展開する可能性があれば十分検討に値すると思いますので、協議会並びに関係者ともども再度検討してどういうふうな方向になるか、またみんなで協議してみたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

先ほど言ったみたいに、やはりジオパークとしてのヒスイを売り出すのと一緒に、ジオパークとしての市の花・ササユリを売り出す。これはやはり市も全力を挙げてやっていただきたいと思いますし、その中に世界に1つしかない宇宙を飛んだササユリがあるということで、ぜひこれを推進していってほしいと思います。

最後になりますけども北陸自動車道の蓮台寺サービスエリア、あそこは外からでも食事に行けるんですね。逆に、あそこにとめてもらったお客さんを、すぐ近くのフォッサマグナミュージアムまで誘導できるような方法というのは、何か考えられないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

1つの案でありますけど、当課の職員からもそのような1案が出ております。フォッサマグナミュージアムは意外と蓮台寺のパーキングエリアから歩くと、あるいは交通経路の中で近いです。あわせて翡翠園も近い存在です。こういうものを順路として、まちめぐりの一環として活用できないかというような話も内部では、今、非常に検討しております。

ただ、立地条件だとか、啓発によるお客さまがどれだけいるかという部分も大きな課題だと思いますので、可能性が見つけられれば、ぜひ少し検討したいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足させていただきます。

以前、アイヌの文化の講演をいただいた、札幌大学の本田部長においでいただきまして講演したことがございまして、そのお話をする中で、パーキングエリアにとめて、フォッサマグナミュージアムに何度も行っていただいているというお話を聞かさせていただいていることを考えますと、恐らく今そういった方々が、かなりおるんでないかなと思っております。

それに対してのアプローチはできておるわけですが、本当に正式にそういったアプローチはできてございません。ただ、行けるような状態はつくってあるわけでありまして、そのようなことで今度、道路関係者とその辺を話してみても、正式にやっていいかどうかというのが、まず大事であろう。そうしないと誘導できないわけでございますので、その辺のやっぱり調査をする中で、できれば進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

ぜひ関係者と協議をして、そういう方向にいてもらいたい。今、滝川課長が言ったように、最初から市内めぐりをやらなくてもいいんですよ。例えば最初は、あそこに自転車とかバイクを置いて、そこからフォッサマグナミュージアムへの行き先の案内図を書いて来てもらう、それで評判がよかったら市内観光も考えると、段階を踏んでやっぱりやるべきじゃないですか。それには簡単に、勝手にやるわけにいかないから、今、市長が言ったみたいに関係者と協議をして、そういうふうなことができるようにやはり検討しながら、取り組んでいくべきだと思いますけども、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

今後検討する1つとして、ぜひみんなで協議してまいりたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

よろしくをお願いします。

もう1つ言い残したことがあったんで、冬の風物詩になってきておるあんこう祭りですけども、能生、糸魚川、青海、それぞれ3地域が、それぞれ個性を出して行っていますけども、あんこう祭り、その個性、それぞれ取り組んでいる能生、糸魚川、青海は、どのような体制で行っているかということ、ちょっと観光協会を通じてでもいいですけども、わかってる範囲で教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

それぞれ青海、能生、糸魚川という地域で展開しております。それぞれ観光協会がかかわりがある中で、実行委員会形式で実施しているものというふうに把握しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

能生、青海は青海、それぞれ観光協会が主体になってやっているんですけども、それなりに取り組みは、それはそれでいいと思いますが、私がどうも疑問に思うのは、糸魚川の駅前でやってるあんこう祭りなんです。あそこにやはり市から補助も一番多く出ていると思いますし、市の職員も結構手伝いに来てるんです。青海、能生というのは、そんなに職員も手伝いに来ていないです。

その中で、あんこうは実行委員会だけしかあんこう汁をつくれないうのは、おかしいんじゃないですか。ラーメン祭り行っても、何店舗もラーメンがある中で食べ比べているんですけども、あれはどういうふうに指導しとるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

各実施団体の実行委員会の中では、もちろん構成員というのがあると思いますので、会議が数回持たれる中で、その構成員を主体にした意見交換のもとに実施されるというふうに思っております。その中の意見交換の中で、どういう話がなされたというのは、やはりそこにどれだけかわるかということも大切ですし、やはり皆さんの総意ではないかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

そうじゃないでしょう。観光客として来るお客が、あんこう祭りで食べ比べができないと言ってるんです。実施団体じゃないんですよ。それをもう1回聞かせてください。それで私は終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

行事の目的というのがあると思います。1つは交流人口の拡大、それに徹すると思うんです。いろんなやり方があると思いますので、もしその中でいろんな疑義が生じれば、まとめ役として行政もかかわっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

12月市議会で、そういう意見があったということをもた実行委員会でお伝えしながら、検討していただくことにさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

倉又議員。

18番（倉又 稔君）

ちょっと不完全燃焼で終わるかなと思ったんですが、最後の市長の言葉で少し納得しかたなと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、倉又議員の質問が終わりました。

本日はこれにとどめ、延会といたします。

長時間ご苦労さまでございました。

午後4時56分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+